

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<25週> 無菌性髄膜炎 - 定点当たり報告数は先週に引き続き増加している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<麻疹> 第1週からの累積報告数は9,126人
<腸管出血性大腸菌感染症> 第25週の報告数は87例(うち有症者は43例)



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 無菌性髄膜炎 / 手足口病 / 流行性角結膜炎



速報
P.6-8

エコーウイルス13型による髄膜炎の多発 / 炭疽菌PCRにおいて防御抗原遺伝子と思われるバンドが検出された事例 / 炭疽菌のPCR



海外感染症情報
P.9-10

ガボンで急性出血熱疑い患者発生 / モザンビークでコレラ発生 / 髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5の迅速EUサーベイランスシステム報告



感染症の話
P.11-15

日本紅斑熱
紅斑熱群リケッチアの一種 *Rickettsia japonica* を起因病原体とし、野山に入りマダニに刺咬されることにより感染する。



読者のコーナー
P.16



グラフ総覧(25週)
P.17-23



25週のデータ
P.24-31



発生動向総覧

第25週コメント 6月27日集計分

全数報告の感染症

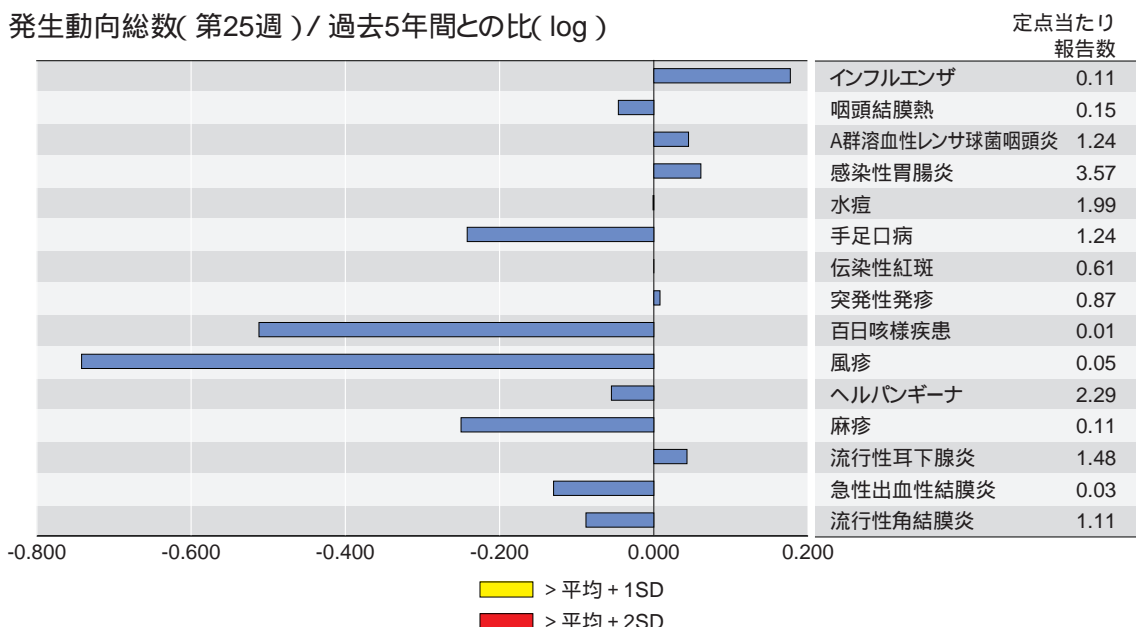
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢8例(推定感染地: 国内2例、インドネシア2例、ベトナム2例、フィリピン1例、インド1例) 腸チフス2例(推定感染地: インド、バングラデシュ各1例)、パラチフス1例(推定感染地: 不明)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症87例(うち有症者43例。佐賀県の2つの保育所で乳幼児を中心にO111型とO26型の集団発生事例。大阪府と島根県の各1カ所ずつの保育園でO157の集団発生事例)
- 4類感染症: アメーバ赤痢8例(推定感染地: 国内6例、中国、フィリピン各1例) クリプトスポリジウム症2例(推定感染地: ともに国内) ジアルジア症1例(推定感染地: 国内)、ツツガムシ病1例、破傷風1例(76歳)
 - 急性ウイルス性肝炎9例
 - A型6例
 - B型1例(感染経路: 不明)
 - C型1例(感染経路: 不明)
 - サイトメガロウイルス1例
 - クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)
 - 後天性免疫不全症候群11例(無症候性10例、AIDS 1例)
 - 感染経路: すべて性的接触(異性間4例、同性間7例)
 - デング熱1例(推定感染地: タイ)
 - 梅毒14例(早期顕症5例、晩期顕症2例、無症候性7例)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は前週に引き続き増加しており、都道府県別ではエコーウイルスの流行を反映して福井県(2.3)からの報告数が多く、その他に岡山県(1.8)、滋賀県(1.7)からの報告が多い。

他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて特別多くなっているわけではない。しかし、ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、例年通り急速な立ち上がりを見せており、都道府県別では新潟県(6.1)、富山県(5.7)などからの報告が多い。手足口病の定点当たり報告数もゆっくりと増加しつつあり、神奈川県(3.9)、沖縄県(3.6)、高知県(3.1)からの報告数が多い。水痘は定点当たり報告数が減少したが、都道府県別では山形県(4.1)、岐阜県(3.9)、福島県(3.8)と多い地域が残っている。インフルエンザと感染性胃腸炎の定点当たり報告数も減少したが、都道府県別では前者が沖縄県(4.0)から、後者が宮城県(7.2)、鳥取県(6.4)からの報告数が多い。流行性耳下腺炎は定点当たり報告数に大きな変化はないが、都道府県別で山形県(4.7)と宮崎県(4.1)が多くなっている。麻疹の定点当たり報告数は全体としては例年より低い水準を保っているが、都道府県別で岐阜県(0.9)、青森県(0.6)からの報告が依然として多い。風疹の定点当たり報告数は引き続き低値を保っているが、福岡県(0.5)からの報告が他県の2倍以上ある。

発生動向総数(第25週)/過去5年間との比(log)

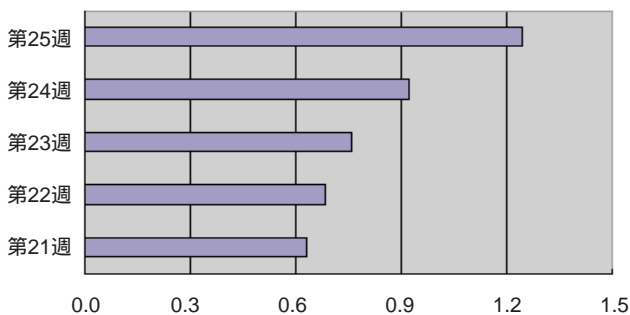


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

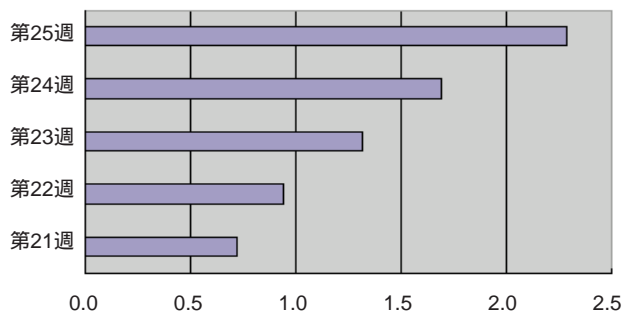
最近の注目疾患－5週間の動き

手足口病、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎などの定点当たり報告数は、いずれも前週に比べて増加している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘の定点当たり報告数は前週に比べて減少した。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は不変である。

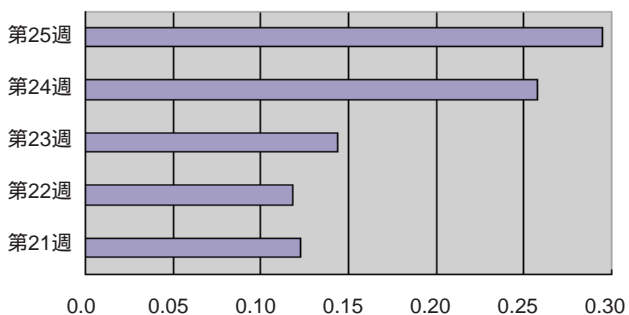
手足口病



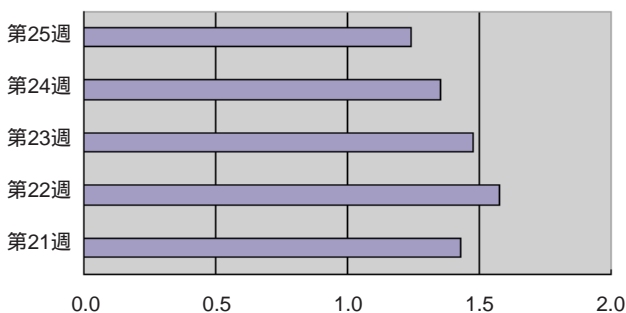
ヘルパンギーナ



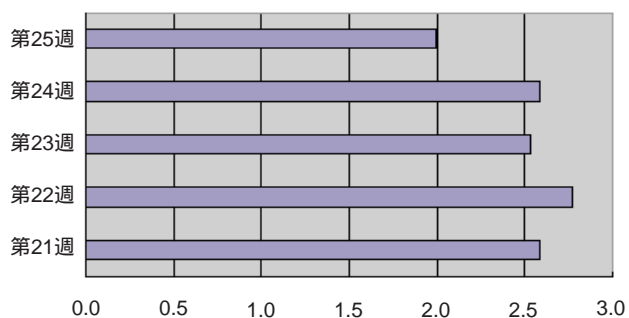
無菌性髄膜炎



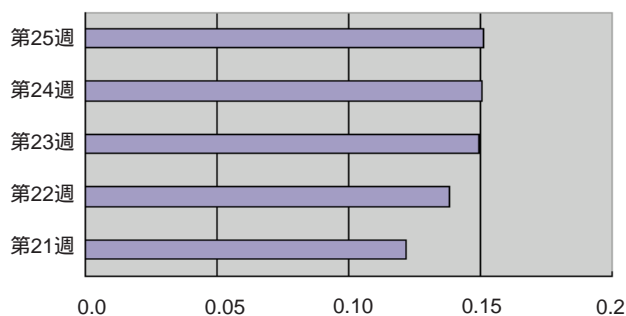
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



水痘



咽頭結膜熱



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



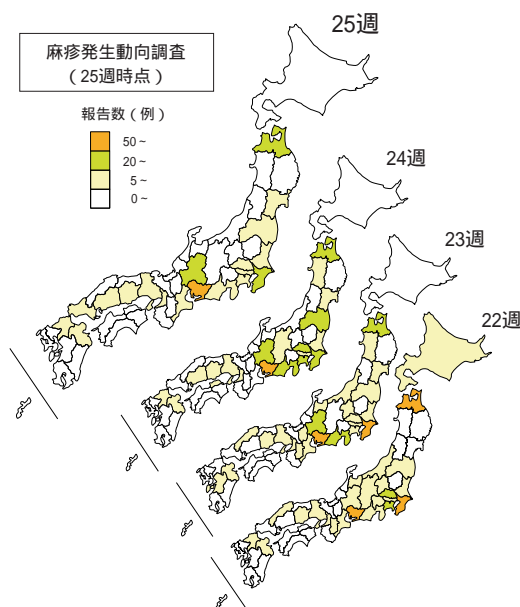
注目すべき感染症

麻疹

麻疹は例年年明けから春にかけて報告が増加し、5月頃流行のピークを迎える。昨年は1992、1993年以来の大きな流行となり、成人麻疹の増加も認められた。2002年の第25週までの発生状況に関しては、全国レベルでの定点当たり報告数は例年に比べ低くなっている(20ページグラフ参照)。第25週現在定点当たり報告数が多くなっているのは、岐阜県(0.9)、青森県(0.6)、愛知県(0.3)などである。本年第1週からの累積報告数は9,126人である。また、全国約500の基幹病院定点から報告される成人麻疹は、累積で268人となっている。

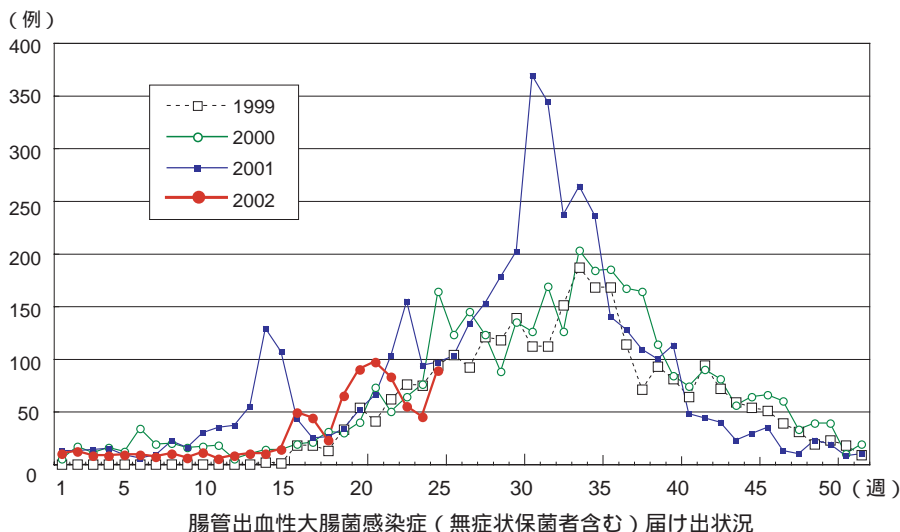
厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによれば、大きな流行の存在を示唆する「警報」は、青森県、愛知県内の各3保健所、福島県、岡山県内の各2保健所など全国計13保健所(前週より減)で発生しており、今後4週間以内に警報が生ずる可能性が高い「注意報」は、愛知県内の5保健所、岐阜県内の4保健所、埼玉県内の3保健所など、全国計29保健所(前週より減)に発生している。

1歳を過ぎた麻疹ワクチン未接種かつ麻疹未罹患者には、ワクチンを早急に接種することが推奨される。



腸管出血性大腸菌感染症

2002年第25週の報告は87例で(昨年の同時期も87例)、うち有症者は43例であった。血清型・毒素産生については、O157・VT1+VT2が17例で最も多く、次いでO111・VT1が8例であった。第25週までの累積報告数は774例(昨年の同時期は1,096例)となっている。累積報告数を都道府県別にみた場合、兵庫県99例、大阪府87例、佐賀県86例などが多くとなっている。また、累積報告数を5歳毎の年齢階級別にみると0歳、1～4歳、70歳以上は別扱い)1～4歳203例、5～9歳120例、20～24歳52例、10～14歳49例の順である。





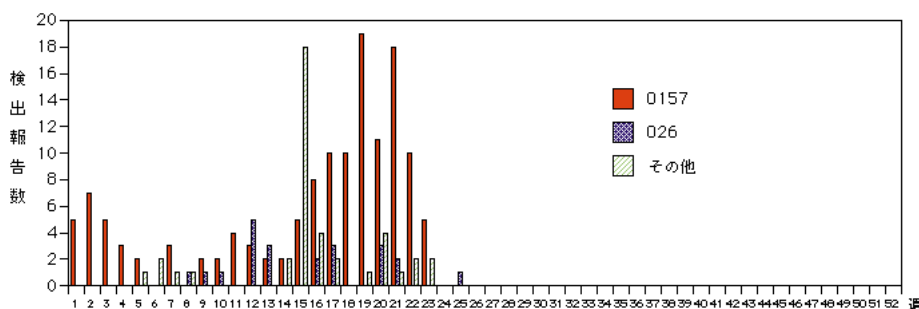
病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2002年6月28日現在報告分)

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌 2002年

Vero毒素産生性大腸菌の検出総数は199件で、うちO157が136件、O26が22件、その他の血清型41件(うち23件は、佐賀県の保育園におけるO121の集団発生)である。最近では、第25週に秋田県からO26が1件報告されている。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2002年 (病原微生物検出情報: 2002年6月28日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



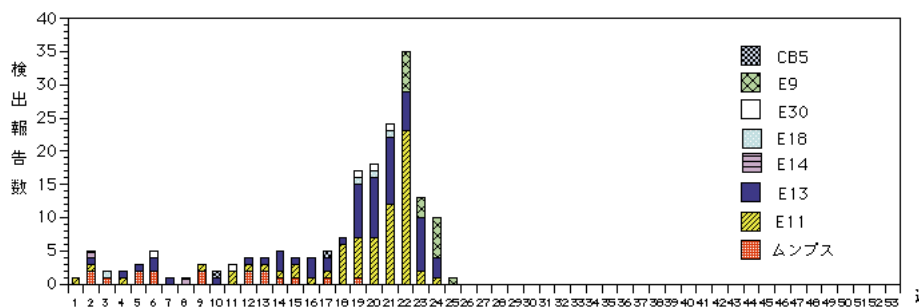
Infectious Agents Surveillance Report

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2002年

エコーウイルス(E)163件(11型70、13型63、9型16、30型6、18型4、14型2、16型2)、ムンプスウイルス17件、B群コクサッキーウイルス(CB)2件(3型1、5型1)の分離が報告されている。E11は香川県54、高知県14と、ほとんどが四国からの分離報告であり、第20週以降香川県からの報告が急増している。一方、高知県では第20週を境にE11の報告が減少し、第22週以降はE9の分離が報告されている。E13は福井県、大阪府を中心とした北陸、近畿地方からの報告が依然続いているが、愛媛県からも報告されている(<http://idsc.nih.go.jp/prompt/graph/ev3j.gif>)。

週別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス分離報告数、2002年

(病原微生物検出情報: 2002年6月28日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

手足口病患者から分離されたウイルス 2002年

コクサッキーウイルスA16型50件(島根県16、高知県13、福島県11など)、エンテロウイルス71型5件(埼玉県2、神奈川県2、高知県1)、エコーウイルス16型1件(奈良県)の分離が報告されている。

流行性角結膜炎患者から分離されたウイルス 2002年

アデノウイルス19型31件(札幌市14、大阪府12など)、3型13件(札幌市7、長野県5、岩手県1)、37型10件(札幌市2、岩手県2、熊本県2など)、4型6件(大阪府3など)の分離が報告されている。



エコーウイルス13型による髄膜炎の多発

本年の無菌性髄膜炎は夏に近づくとともに、その定点当たり報告数は急速に増加しており、例年の同時期の報告数を大幅に上回っている。2002年分の無菌性髄膜炎からの分離ウイルスをまとめると、6月28日現在、エコーウイルス(E)163件(11型70、13型63、9型16、30型6、18型4、14型2、16型2)、ムンプスウイルス17件、B群コクサッキーウイルス(CB)2件(3型1、5型1)の分離が報告されており、特にエコーウイルス13型の報告が目立つ(5ページ「病原体情報」参照)。

本邦では、エコーウイルス13型(E13)は1981～2000年まで分離報告がなく、海外における状況(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/23/265/fr2656.html>)と同様、きわめて稀な型であったが、2001年第35週以降、福島県37件、東京都4件、石川県2件、福井県37件、長野県1件、愛知県1件、京都市5件、大阪府13件、大阪市9件、和歌山県7件、岡山県3件、愛媛県6件、北九州市1件で、合計126件の報告があり(6月28日現在)、今年に入って増加傾向にある(<http://idsc.nih.go.jp/prompt/s2graph-kj.html>)。

これまでの福井県(<http://idsc.nih.go.jp/rapid/pr2694.html>)、福島県(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/22/262/pr2622.html>)、大阪市(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/23/267/kj2674.html>)でのE13流行状況の報告、および外国情報あるいは文献情報では、重症例の記載はなく、基本的に通常の無菌性髄膜炎の臨床経過をとり、重症合併症、あるいは後遺症は稀であると思われる。

E13は他のエンテロウイルス同様、基本的には糞口感染、飛沫感染で伝播することから、一般的な感染予防対策、すなわち手洗いの励行などが勧められる。

1980年8月に岐阜県で1例、無症状者の便から分離された以後、本邦では全く分離報告がなかったという事実と、福井県での血清疫学調査から、日本ではE13に対する免疫を持つ人はほとんどなく、今後の流行の拡大が懸念されるため、今後も発生動向に注意が必要である。

(国立感染症研究所感染症情報センター)

炭疽菌PCRにおいて防御抗原遺伝子と思われるバンドが検出された事例

2002年3月27日、札幌市内の公共施設のトイレ床に「白い粉」があるのを清掃作業員が発見した。同施設は直ちに同トイレへの立入り禁止措置を取るとともに110番通報し、保健所等による現場除洗、接触者調査等が行われ、当所で「白い粉」の炭疽菌検査を行った。「白い粉」は粉薬状の微粉末であった。

<一次検査>

「白い粉」に前処理を行い沈渣の再浮遊液を試料とし、まず、塗抹検査(グラム染色、芽胞染色、莢膜染色)、PCR(防御抗原遺伝子(PA)、莢膜遺伝子(CAP))及びポリミキシンB加TSBで増菌培養を行い、残りの試料を62.5℃15分間熱処理後、直接分離培養(血液寒天、NGKG寒天、Bacillus Cereus Agar(BCA))及びTSBで増菌培養を行った。

なお、PCRは2001年10月25日国立感染症研究所及び厚生労働省主催による「炭疽菌の検査

法に関する講習会」で配布されたプライマーを用い、同講習会資料「炭疽菌遺伝子のPCR法による検出」に基づいて行った。

<二次検査>

二次検査はポリミキシンB加TSB及びTSBの36 6時間振とう培養液を試料とし、塗抹検査、PCR、分離培養を行った。塗抹検査ではグラム陽性、有芽胞大桿菌が認められた。また、PCRではPA遺伝子と思われる596bpのバンドが検出された。CAP遺伝子は検出されなかった。

PA遺伝子と思われるバンドは再検査によっても検出され、陽性コントロール及び陽性コントロール添加試料のバンドとも大きさが一致したことから、確認検査を開始するとともに、PCR産物の確認を道立衛生研究所に依頼した。

<確認検査>

確認検査は増菌分離培養(血液寒天、NGKG寒天、BCA)による平板培地のコロニーを試料とし、塗抹検査、確認培養(TSI、VP、シモンズクエン酸)、パールテスト、ファージテストを行った。

二次検査及び確認検査では、溶血性(+)、辺縁縮毛状(-)、運動性(+)、パールテスト(-)、及びファージテスト(-)であり、炭疽菌の性状との一致は認められなかった。

道立衛生研究所では、当所とは異なるプライマーを用いたPCR再検査、アスコリ反応、パールテスト、ファージテストを行った。異なるプライマーを用いたPCRでもPA遺伝子と思われるバンドが検出されたことから、保健所等により接触者リストに基づく健康調査、患者受入れ病院の確保、対策本部の設置準備が進められた。

また、道立衛生研究所においてPCR産物の特異性を確認するためシーケンスが行われ、PA遺伝子でないことが判明したが、遺伝子の特定には至らなかった。

3月29日午後、確認検査及びシーケンスの結果から炭疽菌陰性を確定した。

今回の事例は、原因は不明であるが、炭疽菌PCRにおいてPA遺伝子と同じサイズのバンドが認められた稀な事例であることから、分離株を国立感染症研究所獣医科学部に提供した。

今回の事件の解明にあたり、全面的にご協力いただいた北海道立衛生研究所食品微生物科、並びに遺伝子工学科の諸先生に深謝する。

札幌市衛生研究所

大谷倫子 赤石尚一 川合常明 廣地敬 坂本裕美子

(IASR2002年7月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

炭疽菌のPCR

PCRは炭疽菌の迅速診断に有用であり、我が国においてもWHOガイドライン¹⁾に紹介されている方法が広く普及している。この方法は、炭疽菌の病原性を規定する2種のプラスミドpXO1、およびpXO2にコードされる防御抗原(PA)、および莢膜(CAP)遺伝子の一部を増幅するものである。同ガイドラインで紹介されている方法では、増幅産物をアガロース電気泳動後、エチジウムブロマイド染色を行い、期待されるサイズのバンドが認められた時に陽性と判定するとされている。今回

札幌市において発生した「白い粉」騒ぎにおいて、札幌市衛生研究所が分離した菌を鋳型にした本法でPA遺伝子と思われるバンドが検出されたとの情報に基づき、改めて本法の妥当性を検証したのでその成績を報告する。

札幌市衛生研究所より分与された菌を直接あるいはLB培地にて増殖させた後、ポイリング法にてDNAを調整、フェノールクロロホルム処理で除蛋白したものを鋳型とし、前述の方法にてPCRを行った。その結果、炭疽菌DNAを鋳型にした場合と区別のつかない大きさのバンドがPA遺伝子のプライマーセットで検出された。この成績からは、本菌がpXO2プラスミドを失った炭疽菌である可能性を示唆していると考えられたが、その可能性を検証するために、炭疽菌に特異的とされている染色体遺伝子Ba813²を標的としたPCR-マイクロプレートハイブリダイゼーション(PCR-MPH)法(湧永製薬松永氏より分与)と、PA、CAPを標的とした蛍光プローブによるリアルタイムPCR(日本ロシュ)を行った。その結果、両検査法では何れの遺伝子も検出されず、当該菌は炭疽菌ではないとの結論が得られた。この結果を更に確認するために、PA遺伝子に対するプライマーで増幅されたDNA断片をpCR2.1プラスミドベクターにクローニングし、その塩基配列を決定した。この配列をBLAST探索したところ、*B. subtilis*のATP依存デオキシリボヌクレアーゼがヒットしたものの、炭疽菌関連遺伝子との相同性は見出されなかった。また、アニーリング温度を変化させてPCRを行ったが、炭疽菌DNAを鋳型にした場合と大きな違いは認められなかった。また、この菌は生化学的性状からは*B. subtilis*と同定された。

以上の知見は、PA特異的とされるプライマーでサイズもほぼ等しいDNA断片が増幅されるバチルス属の菌が、稀ではあるが環境中に存在することを示している。WHOガイドラインあるいは国立感染症研究所講習会資料(平成13年10月)に記載された方法では、PCR後アガロース電気泳動およびエチジウムブロマイド染色で予想されるサイズのバンドが認められれば、炭疽菌である可能性が高いとしている。臨床症状から炭疽が疑われる患者からの材料の場合は別であるが、今回のようにサイズの近い断片が増幅されるバチルス属菌が、稀ではあるが環境中に存在することを考えると、バンドのサイズからのみ早急に炭疽菌であると結論せずに、その特異性を何らかの方法で確認する必要があると考えられる。確認は例えば、特異的内部プローブによるハイブリダイゼーション(マイクロプレートハイブリダイゼーション、あるいはサザンブロットイング)、塩基配列決定などが考えられるが、特異的蛍光プローブを用いたリアルタイムPCRが可能であれば適用できるものと考えられる。

文献

- 1) Guidelines for the surveillance and control of anthrax in human and animals. 3rd edition. WHO
- 2) Patra G. et al.: Isolation of a specific chromosomal DNA sequence of *Bacillus anthracis* and its possible use in diagnosis. *FEMS Immunol. Med. Microbiol.* 15:223-231, 1996

札幌市衛生研究所 赤石尚一
 国立感染症研究所獣医科学部
 藤田 修 井上 智 巽 正志 神山恒夫 山田章雄
 国立感染症研究所細菌第一部
 田村和満 渡邊治雄

(IASR2002年7月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ガボンで急性出血熱疑い患者発生

WHO/CSR 2002年6月24日

6月19日ガボン保健省は、ガボン北東部のOgooue-Ivindo地域のZadie地区で急性出血熱疑いで2名が死亡したとの報告を受けた。6月20日にガボン保健省とWHOのチームはEkata村に調査に行った。急性出血熱疑い患者2名だけでなく、接触者31名も確認された。2名ともコンゴ共和国のMbomo地区のOlobaで発症し、ガボンのEkataで死亡した。接触者のうちの少なくとも一人は、Olobaで類似した疾患の患者の世話をしているときに感染したと思われる。この患者集団の病因を決定するための検体を採取することはできなかった。Zadie地区の保健職員が接触者の経過観察を行っている。

ガボンのこの地域は、2001年10月末にエボラ出血熱が流行したのと同じ場所であった。3月19日に最後の患者が死亡し、ガボン政府は最後の患者との接触後、潜伏期のおよそ2倍の期間が経過した2002年5月6日に流行の終息を宣言した。

ガボンで急性出血熱疑い患者発生 - 更新1

WHO/CSR 2002年6月28日

WHOとガボン保健省のチームが、Ogooue-Ivindo地域のZadie地区で急性出血熱が疑われる疾患で2名が死亡したとの報告につき調査を行ったが、保健省はさらに、Zadie地区保健管理局とWHO地方流行調査団の職員により流行調査委員会(Comité de Coodination et de Gestion de l'Epidémie)を設置した。4つのチーム(疫学サーベイランス、患者管理、衛生管理、住民動員)が形成された。その4つのチームは、現地の看護助手、医療労働者と地域労働者の訓練を行っている。

2名の疑い患者との接触者30名の厳重な経過観察が計画されており、国民の教育活動も強化している。

モザンビークでコレラ発生

WHO/CSR 2002年6月28日

6月17日現在、WHOはモザンビーク保健省から、2002年1月1日以降にCabo Delgado州でコレラ患者2,028名と死亡例17名(致命率0.84%)が発生したとの報告を受けた。Cabo Delgado州の5つの地区(Pemba、Namuno、Mocimboa da praia、Quissanga、Macomia)の全てにおいて患者が発生している。Mocimboa da Praia 地区では2002年4月から、Quissanga地区とMacomia地区では5月から患者が著しく増加した。

同国保健省は、流行調査のために疫学者を派遣し、かつ技術援助を行っている。

髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5の迅速EUサーベイランスシステム報告

Eurosurveillance weekly 2002年6月20日

過去14週間にわたるサーベイランス期間に、侵襲性の髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5またはそれに相当する菌株による感染患者11例が定点国から報告された。そのうち8例はフランス、1例がドイツ、2例が英国で発生した。血清型W135感染患者の第2例目はドイツから報告されたが、亜型分類にはさらなる検査結果が必要である。アイルランド、オランダ、スペインからの症例報告はなかった。フランスの感染患者8例の内訳としては、3月に3例、4月に2例、5月に3例が発生した。3月に最初の患者である39歳女性が敗血症で入院し、血液検体から髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5が培養された。第2例は髄膜炎を罹患した4歳の小児で、第10週に報告され、脳脊髄液から髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5が分離された。3月に発生した第3例は70歳男性で敗血症のため入院し、血液培養で表現型W135:2a:P1.2,5が確認された。3例とも生存しており、全例がメッカ巡礼との関連は不明であった。Multilocus DNA検査(MLDF)では、各菌株が電気泳動37型(ET-37)複合体であることが示された。

フランスから4月に報告された患者は、82歳の高齢女性と1歳の男児であった。82歳の女性は敗血症で入院したが、髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5が感染株として分離され、最終的に死亡した。MLDF検査では、ET-37複合体としてのマーカーは検出されなかった。1歳の男児は髄膜炎で入院し、脳脊髄液培養で表現型W135:2a:NT/NT/NTが確認されたが、最終的には回復した。両者ともメッカ巡礼との関連は不明であった。

別の3例が5月にフランスから報告された。その1例目は敗血症と関節炎で入院した15カ月齢の少女で、髄膜炎菌W135:2a:P1.2感染が確認されたが、最終的に回復した。第2例目の患者は14カ月齢の少女で、骨髄炎のため入院したが、結局回復した。血液検体から髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5が培養された。第3例目は39歳の男性であり、最終的に死亡したが、死後採取された脳脊髄液から髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5が分離された。これら3例でもメッカ巡礼との関連は不明であった。

ドイツからは、5月に9歳の男児患者が報告された。この患者は髄膜炎に罹患し、髄膜炎W135:2a:P1.2,5感染が確認された。5月にはまた、2歳の女児で髄膜炎菌血清型W135感染が確認されたが、表現型の検査結果は完全には判明していない。この患者は敗血症とWaterhouse-Friderichsen症候群で入院した。これらの患児達とメッカ巡礼との関連は不明である。転帰はまだ報告されていない。

英国では、患者2例が2月23日から5月31日の間に報告された。第1例は髄膜炎を発病した5カ月齢の男児であり、感染株は髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5であると確認されたが、2002年メッカ巡礼者との家庭内での接触者であった。患者は回復した。第2例目は23歳男性患者で、メッカ巡礼との関連は不明であった。この患者は髄膜炎で入院し、髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5が病因として確認されたが、結局回復した。

コメント

サウジアラビア当局は、メッカ巡礼2002年(2月21 ~ 25日)へ参加する全ての巡礼者が査証発行前に4価の髄膜炎菌ワクチン(A, C, W135およびY)の接種を受けなければならないと規定した。予想された通り、サーベイランス参加6カ国内で発生した巡礼者およびその接触者中に認められた髄膜炎菌W135:2a:P1.2,5感染患者数は、4価髄膜炎菌ワクチンが義務付けられていなかった2000年及び2001年にこれらの群で認められた感染者数より著明に減少した。



感染症の話

日本紅斑熱

紅斑熱群リケッチア症は広く世界に分布し、北米大陸にみられるロッキー山紅斑熱、地中海沿岸にみられる地中海紅斑熱、オーストラリアにみられるクインズランドダニチフスなどが代表的なものである。わが国でも1984年に患者が初めて報告され、日本紅斑熱とよばれるようになった。本症は紅斑熱群リケッチアの一種 *Rickettsia japonica* を起因病原体とし、野山に入りマダニに刺咬されることにより感染する。

疫学

本症はダニ媒介性疾患の一つであり、発生はダニの性質、生息域、活動などに影響を受ける。媒介ダニは、キチマダニ (*Haemaphysalis flava*)、フタゲチマダニ (*Haemaphysalis longicornis*)、ヤマトマダニ (*Ixodes ovatus*) などのマダニであることが強く示唆されている。いずれのマダニもヒトへの嗜好性が強く、キチマダニからはリケッチアが分離され、他からはPCRによりリケッチアの遺伝子が検出されている。ヒトは野山に入ったときにこれらのマダニに刺咬され、感染する。しかし、全てのダニがリケッチアをもつわけではなく、リケッチアをもつダニ(有毒ダニ)に刺咬されたときだけ感染する。リケッチアはダニからダニへと継卵感染により受け継がれる。また、マダニは幼虫、若虫、成虫のいずれも哺乳動物を刺咬し、吸血する。したがって、自然界で保菌あるいは感染動物は本症のリザーバー(感染巣)となり、動物→ダニ→ヒトの感染もある。この感染巣として、げっ歯類や野生のシカなどが重要である。

症例数は1994年まで年間10～20名程度であったが、1995年頃より増加に転じ、1999～2001年には年間40名近くになった(図1)。発生地域は、1998年以前は鹿児島県、宮崎県、高知県、徳島県、兵庫県(淡路島)、島根県、和歌山県、三重県、神奈川県、千葉県などであったが、1999年

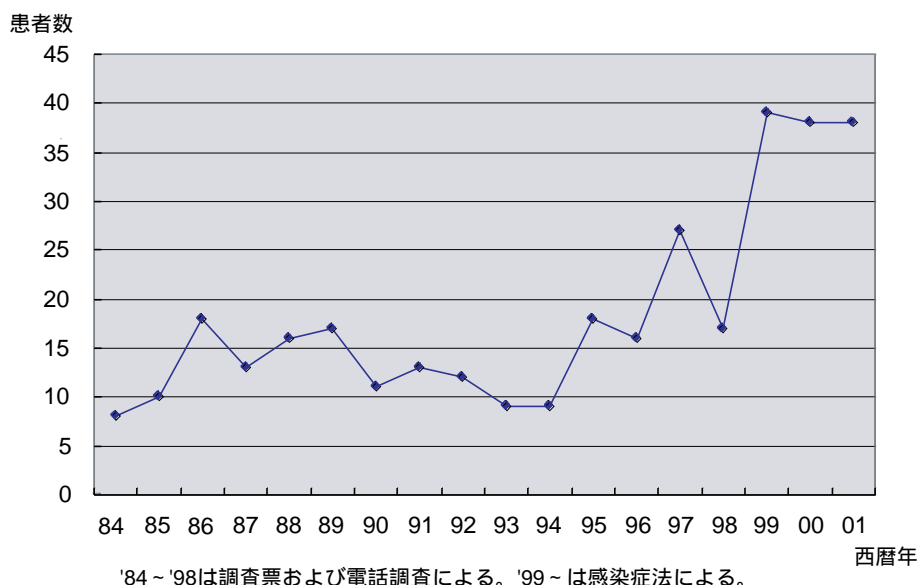


図1. 日本紅斑熱発生の推移

以降拡大し、広島県、長崎県、静岡県でも発生がみられるようになった(図2)。今後も発生地域およびその周辺では発生する可能性が十分あり、注意が必要である。また、本症を媒介するマダニは広くわが国に生息しており、発生地域が主に太平洋側の温暖な地域に限局している理由については不明である。発生時期をみると、1998年以前は7～9月をピークに4～11月の間に発生がみられ、夏を中心して発生するといわれていた。しかし、1999年以降は4月～10月に継続して多くの発生がみられ、さらに3月、11月および12月にも発生がみられた(図3)。今後は、発生時期に地域差がみられるもの(図4)、その年の天候などの影響も受けるので、全国的に春～秋の長い間注意が必要である。

また、本症はわが国特有の疾患であるが、同様の紅斑熱群リケッチア症は広く世界に分布しており、輸入感染症としても重要である。

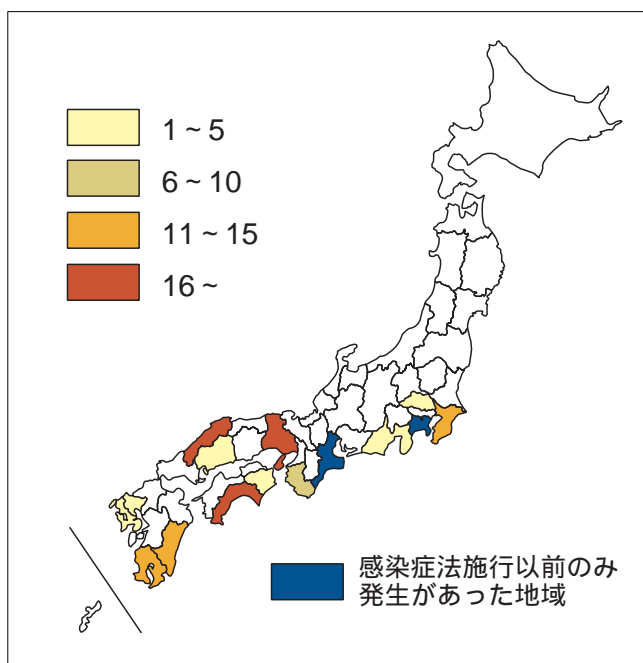
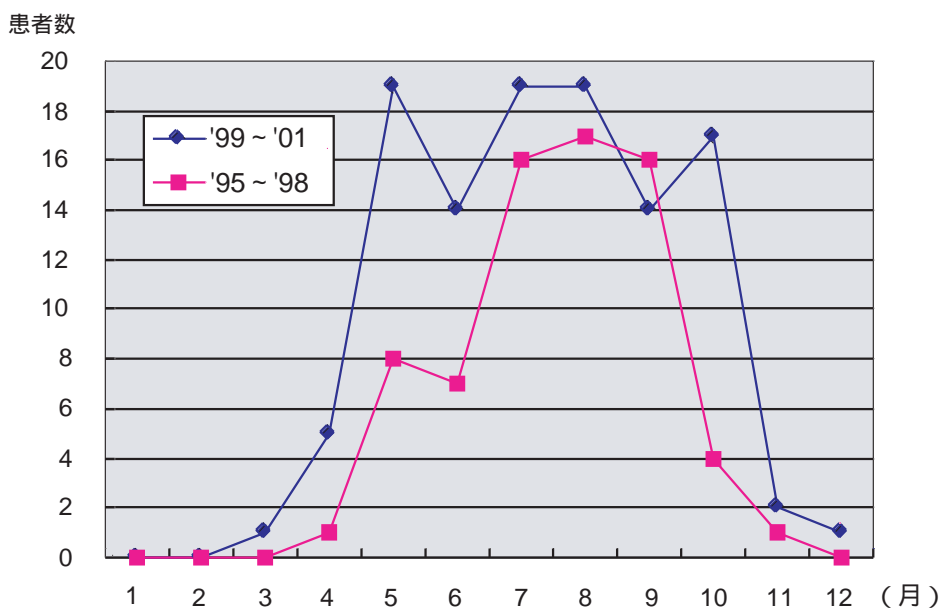


図2. 日本紅斑熱の都道府県別発生数 ('99～01)



'95～'98は調査票および電話調査による。'99～'01は感染症法による。

図3. 日本紅斑熱の月別発生数

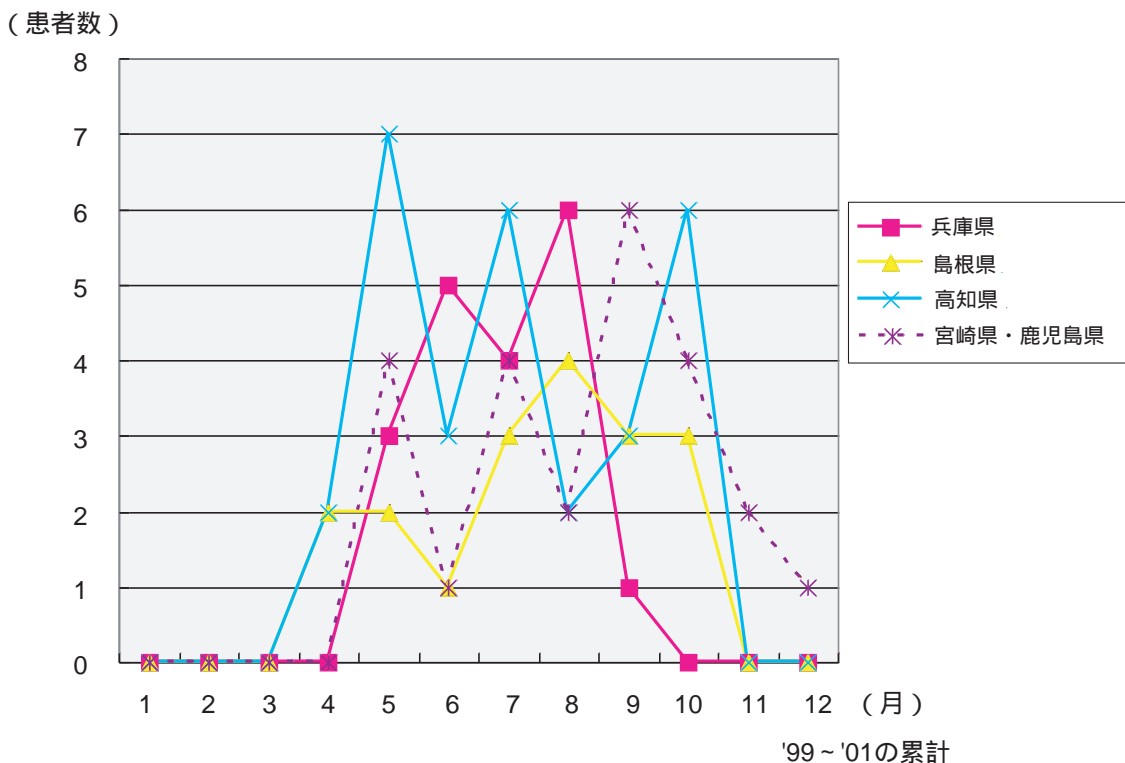


図4. 日本紅斑熱の月別地方別発生数

病原体

本症の病原体はリケッチアの一種リケッチア・ジャポニカ (*Rickettsia japonica*) であり、細胞外では増殖できない偏性細胞内寄生細菌である(写真1)。ロッキー山紅斑熱など他の紅斑熱群リケッチア症の病原体と同じ属である。

臨床症状

頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症する。潜伏期は2～8日と、ツツガムシ病の10～14日に比べやや短い。また、ツツガムシ病と同様に発熱、発疹(写真2)、および刺し口(写真3)が主要三徴候であり、ほとんどの症例にみられる。ツツガムシ病との臨床的な鑑別は困難である。しかし詳細に観察すると、ツツガムシ病では発疹が主に体幹部にみられるのに対し、本症では体幹部より四肢末端部に比較的強く出現すること、またツツガムシ病に比べ、刺し口を中心の痂皮部分が小さいなどの特徴がある。検

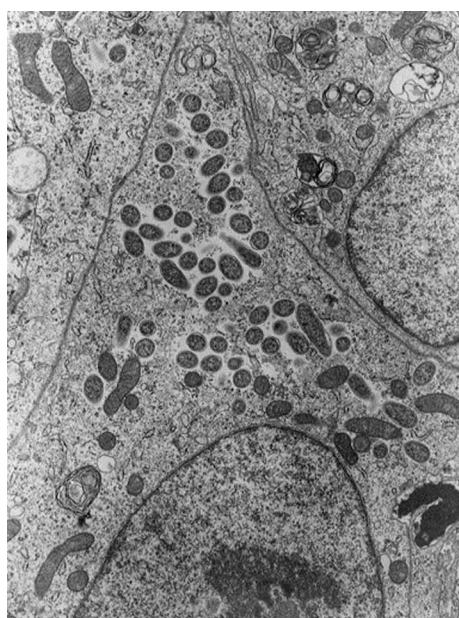


写真1. *Rickettsia japonica* の電子顕微鏡写真
細胞質内に球～桿状のリケッチアが多数観察される。
(徳島大学医学部 内山恒夫博士の厚意による。)



写真2. 日本紅斑熱でみられた発疹
馬原文彦著 恙虫病、日本紅斑熱「新興再興感染症」日本医事新報社より



写真3. 日本紅斑熱でみられた刺し口
馬原文彦著 恙虫病、日本紅斑熱「新興再興感染症」日本医事新報社より

査所見では、ツツガムシ病と同様にCRPの上昇、肝酵素(AST、ALT)の上昇、白血球減少および血小板減少などがみられる。

病原診断

確定診断は主に、間接蛍光抗体法による血清診断で行われている。紅斑熱群リケッチアは種間で血清学的交差反応が強く、*R. japonica* を抗原として用いれば全ての紅斑熱群リケッチア症の診断が可能であるため、輸入感染症にも対応できる。また、類似疾患の鑑別のため、ツツガムシ病リケッチアの抗原を併用することが望ましい。

また病原体診断としては、末梢血中からのリケッチアDNA検出が行われている。ツツガムシ病の場合と同様にEDTA加全血からbuffy coat分画を単離し、DNAを抽出、PCR法による検出を行っている。リケッチアの分離はマウスや培養細胞を用いて行われるが、P3実験施設が必要であり、時間がかかるので診断には実用的ではない。

治療・予防

ダニ媒介性リケッチア症の一般的な治療および予防法に準じて行う。治療には、本症を早期に疑い適切な抗菌薬を投与することが極めて重要である。第一選択薬はテトラサイクリン系の抗菌薬である。また、ニューキノロン系薬が有効であるとの報告もある(ツツガムシ病には無効)。ラクタム系の抗菌薬は全く無効である。また、本症の予防には、ワクチンは利用できず、ダニの刺咬を防ぐことが極めて重要である。発生時期および発生地を知り、汚染地域に立ち入らないこと、農作業や森林作業でやむを得ず立ち入る際には、①皮膚の露出を少なくしダニの付着を防ぐ、②ダニ忌避剤を使用する、③作業後入浴し、注意深く付着ダニの除去を行う。この際、感染を防ぐためダニを指でつぶさず、頭部をピンセットなどで摘んで除去する。(マダニは口器が長く皮膚に深く刺咬していて、入浴だけでは除去できない可能性がある。)などに注意することが必要である。

感染症法における取り扱い

日本紅斑熱は4類感染症全数把握疾患に定められており、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

- ・病原体の検出
例、血液からのリケッチアの分離など
- ・病原体の遺伝子の検出
例、PCR法など
- ・病原体に対する抗体の検出
例、間接蛍光抗体法(抗体価の4倍以上上昇か、IgM抗体上昇)など

(国立感染症研究所ウイルス第二部 小川基彦)



読者のコーナー

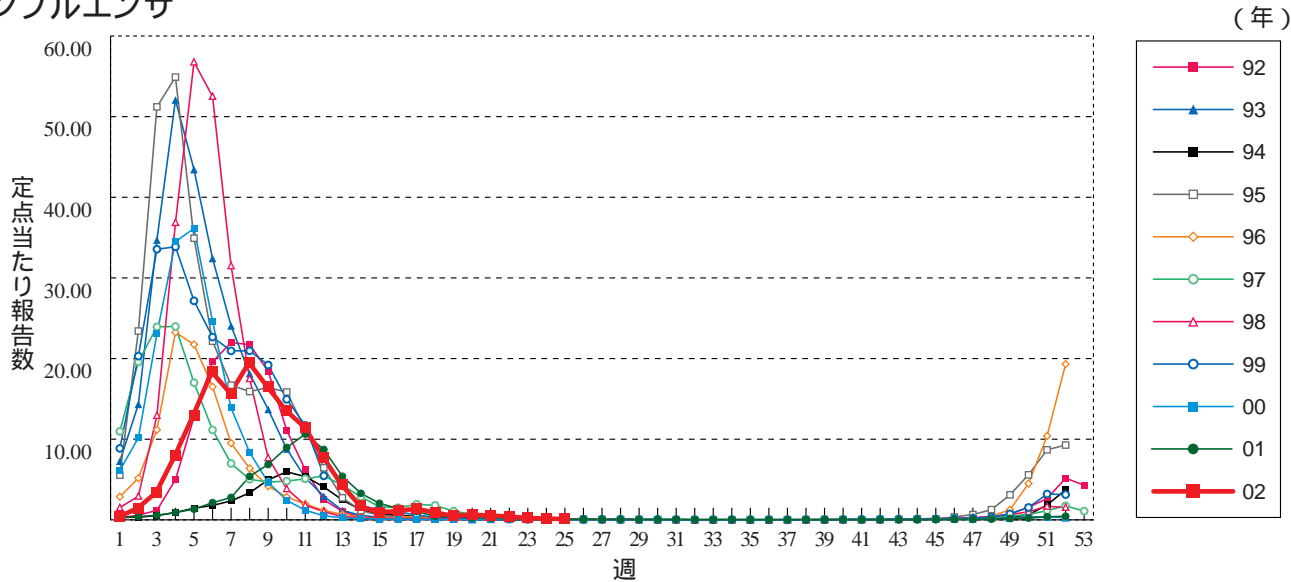
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

idsc-query@nih.go.jp

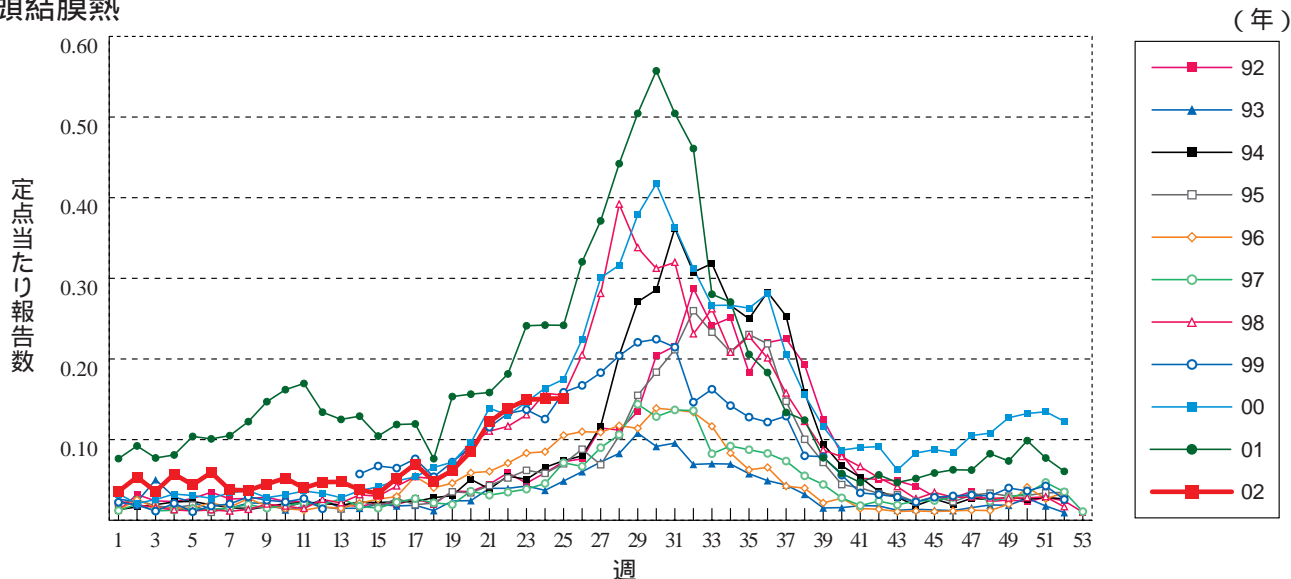


グラフ総覧(25週)

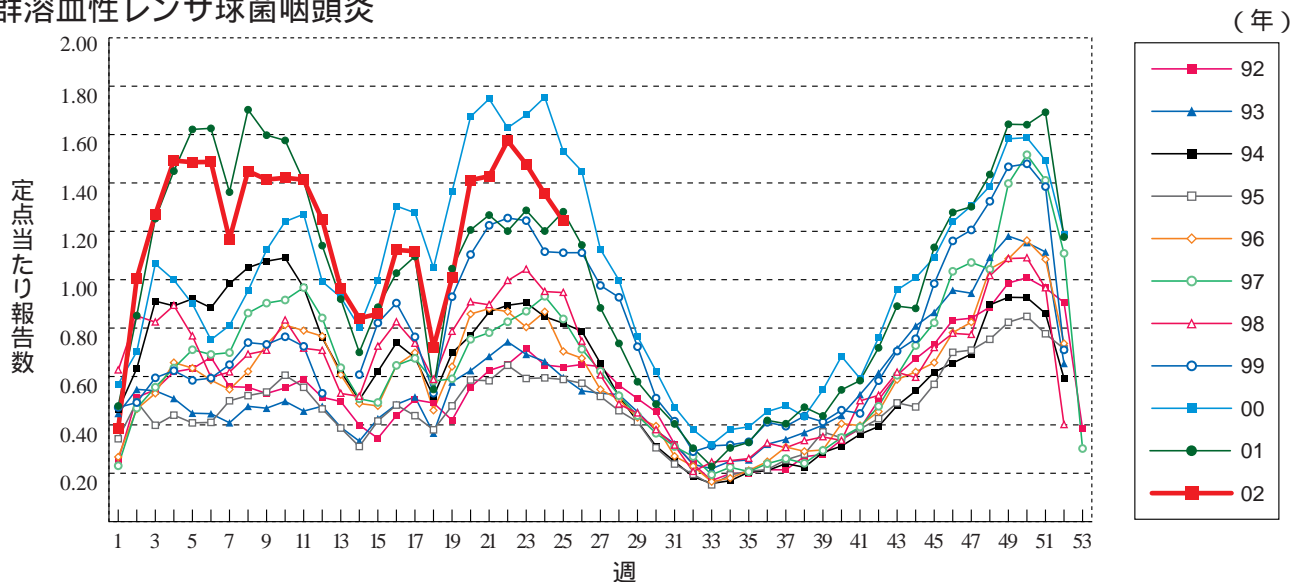
インフルエンザ



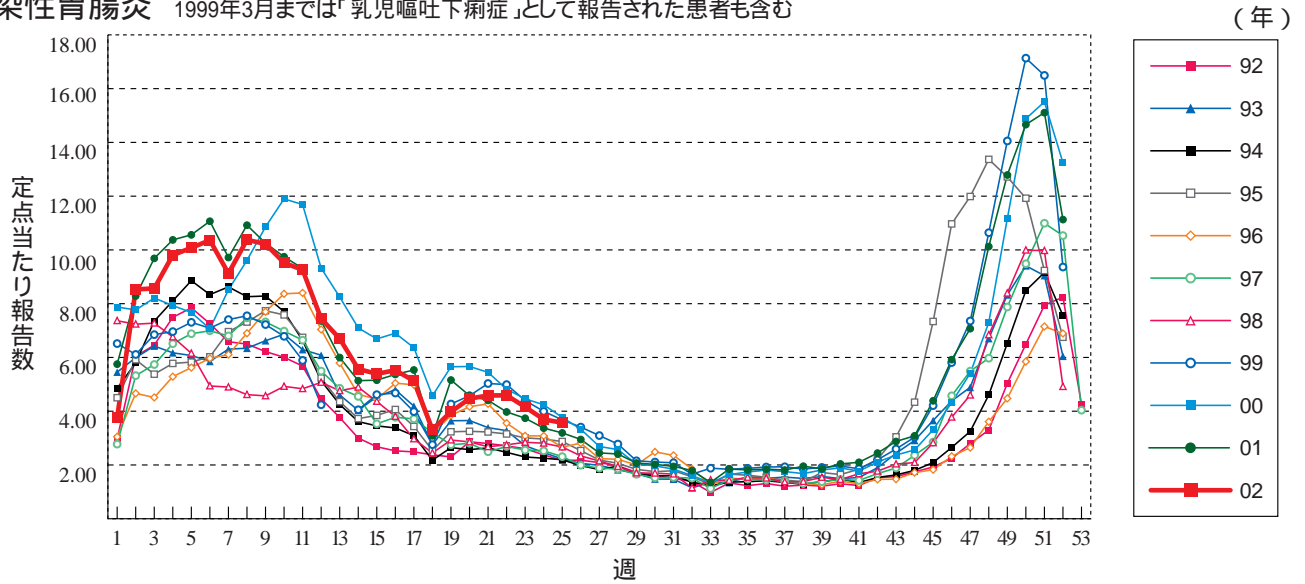
咽頭結膜熱



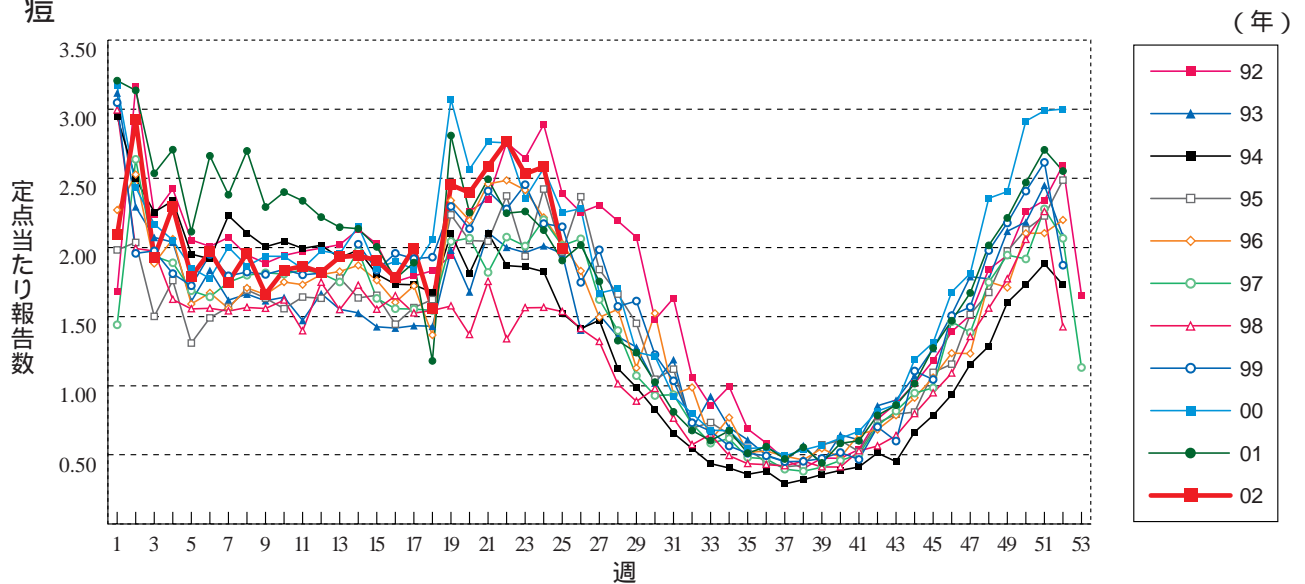
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



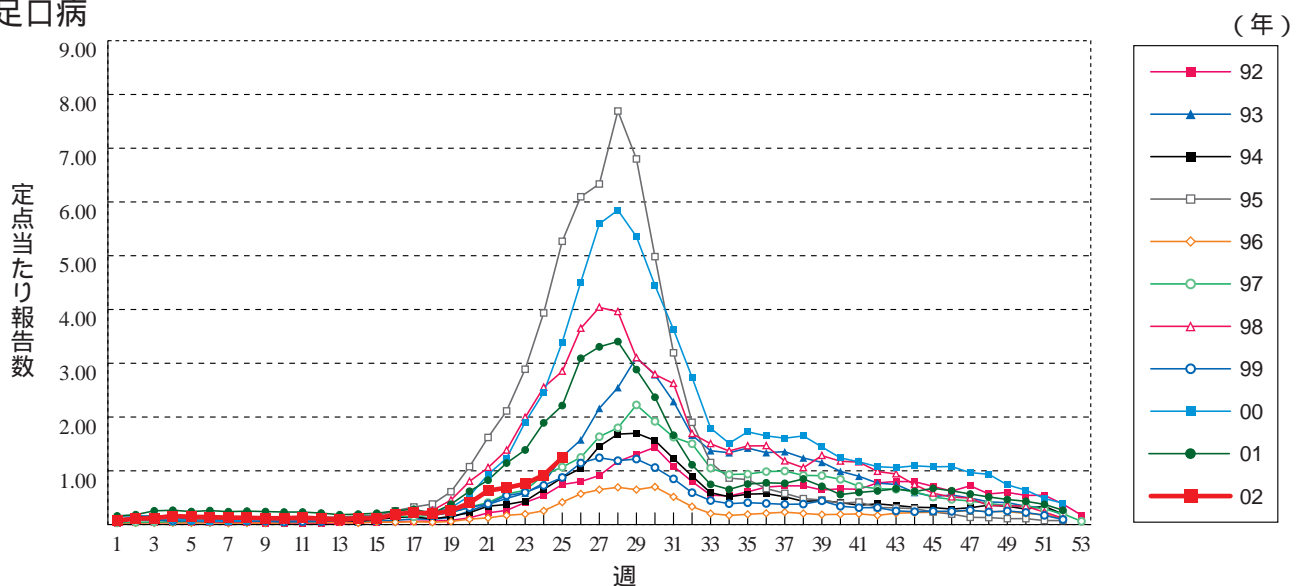
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



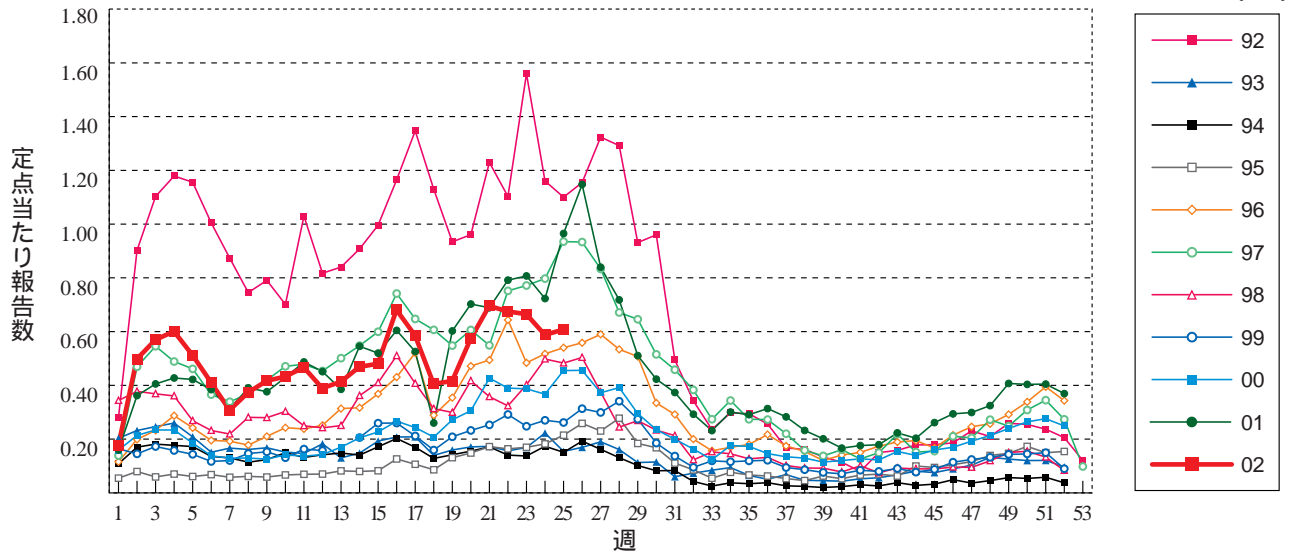
水痘



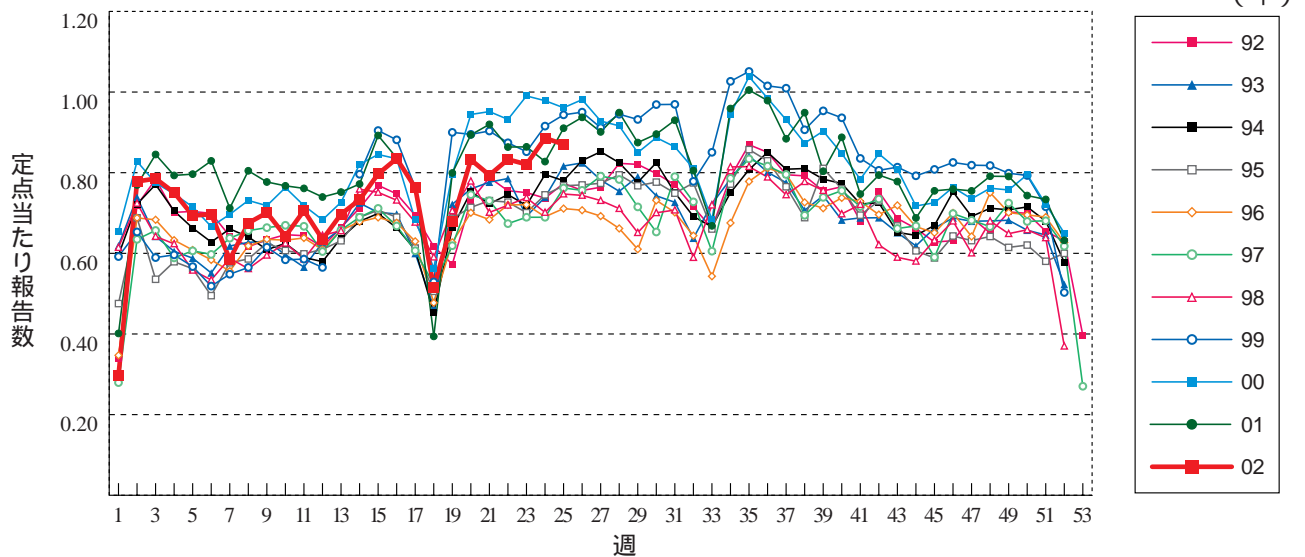
手足口病



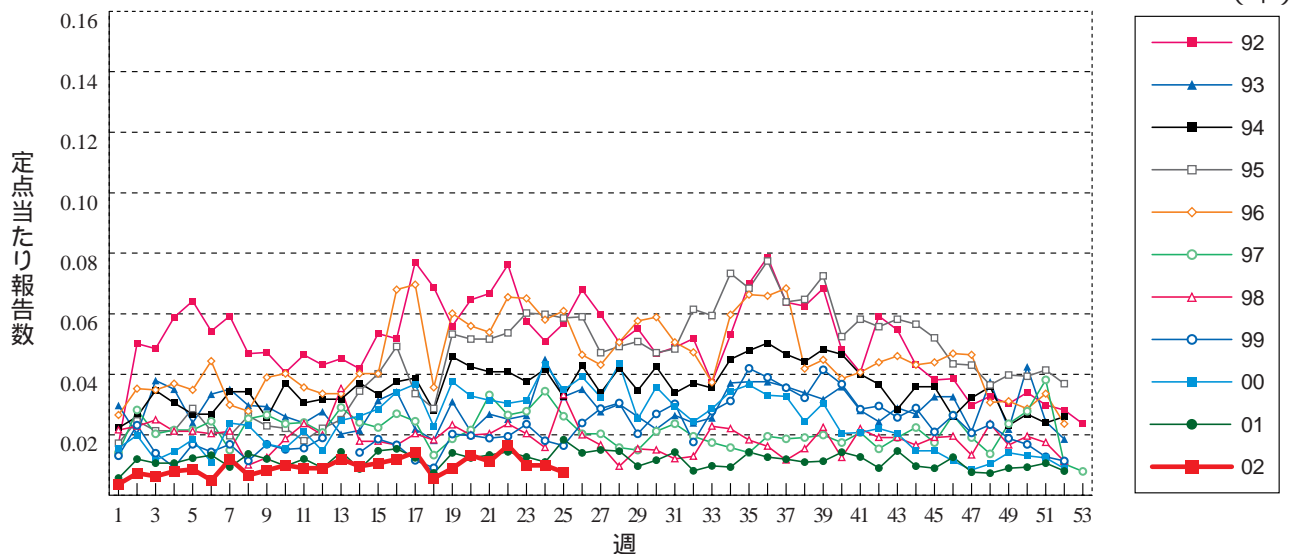
伝染性紅斑



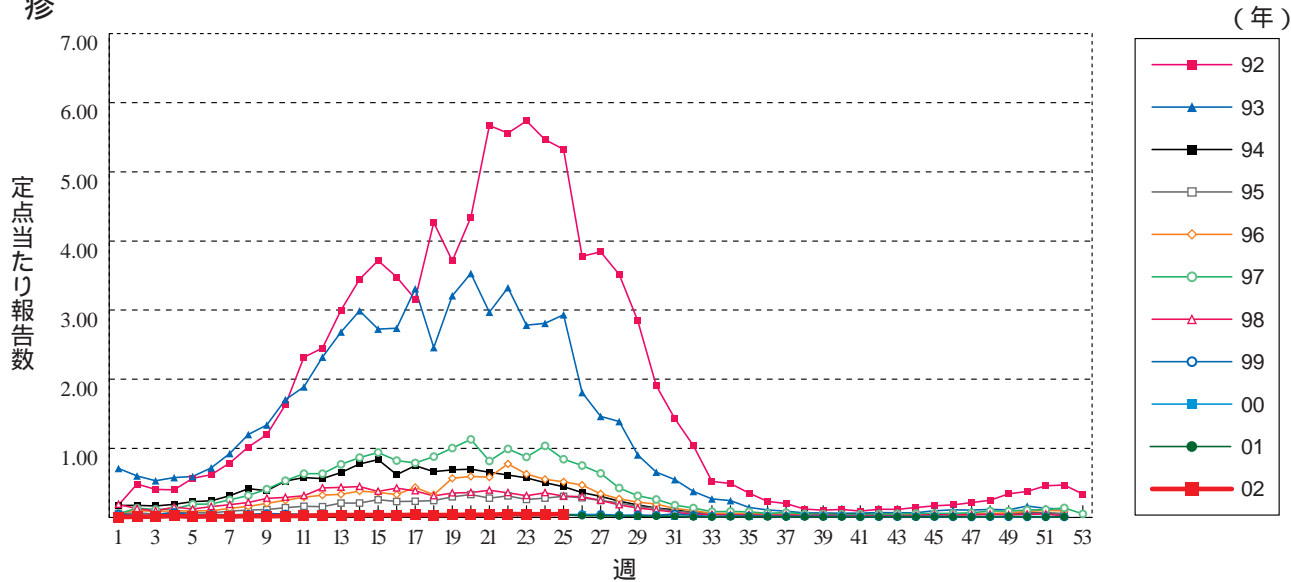
突発性発疹



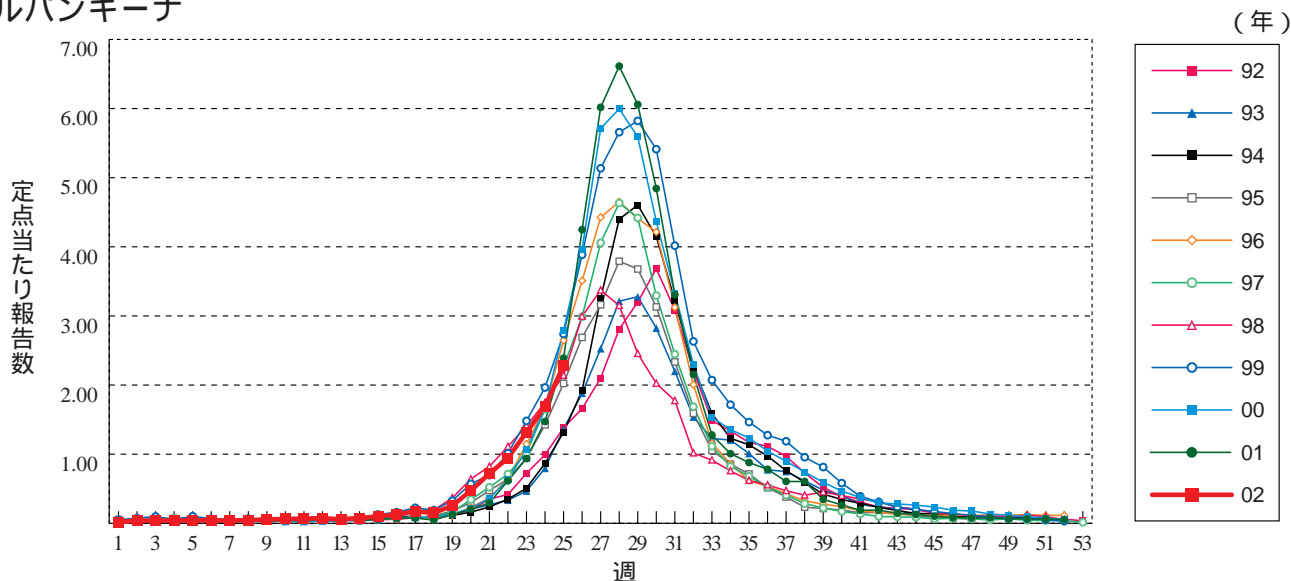
百日咳



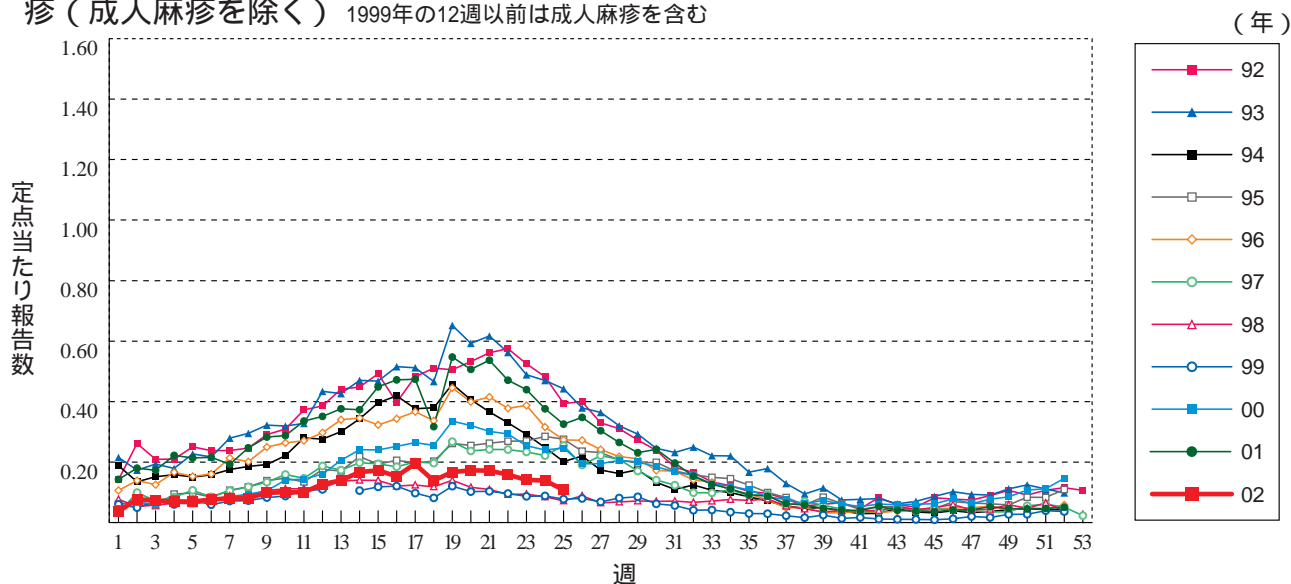
風 疹



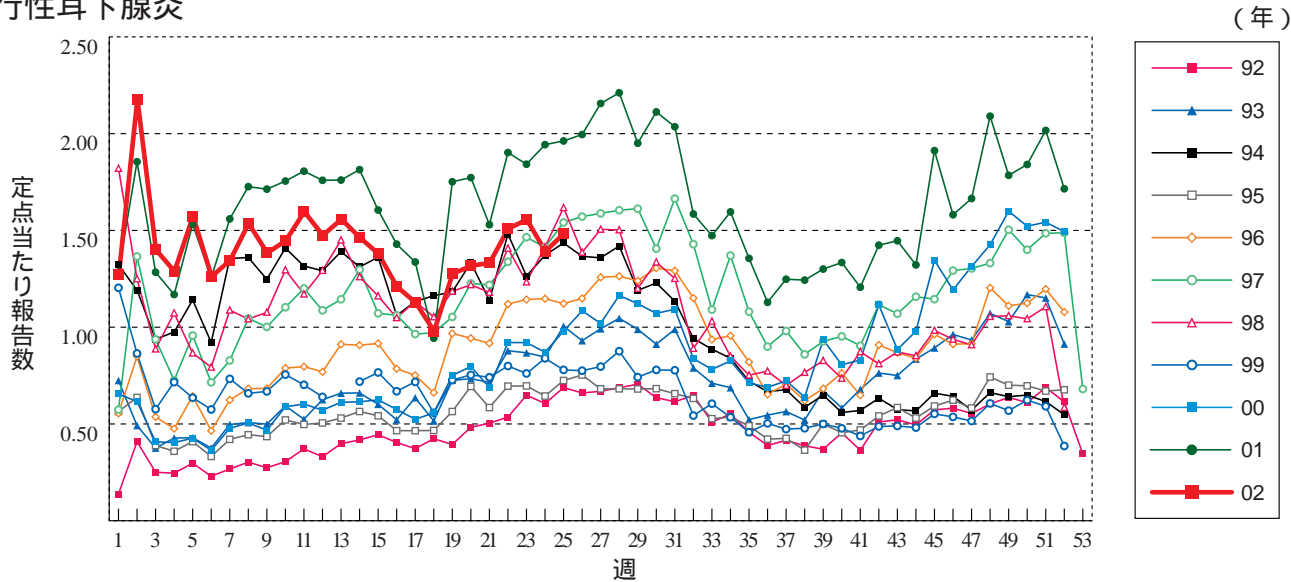
ヘルパンギーナ



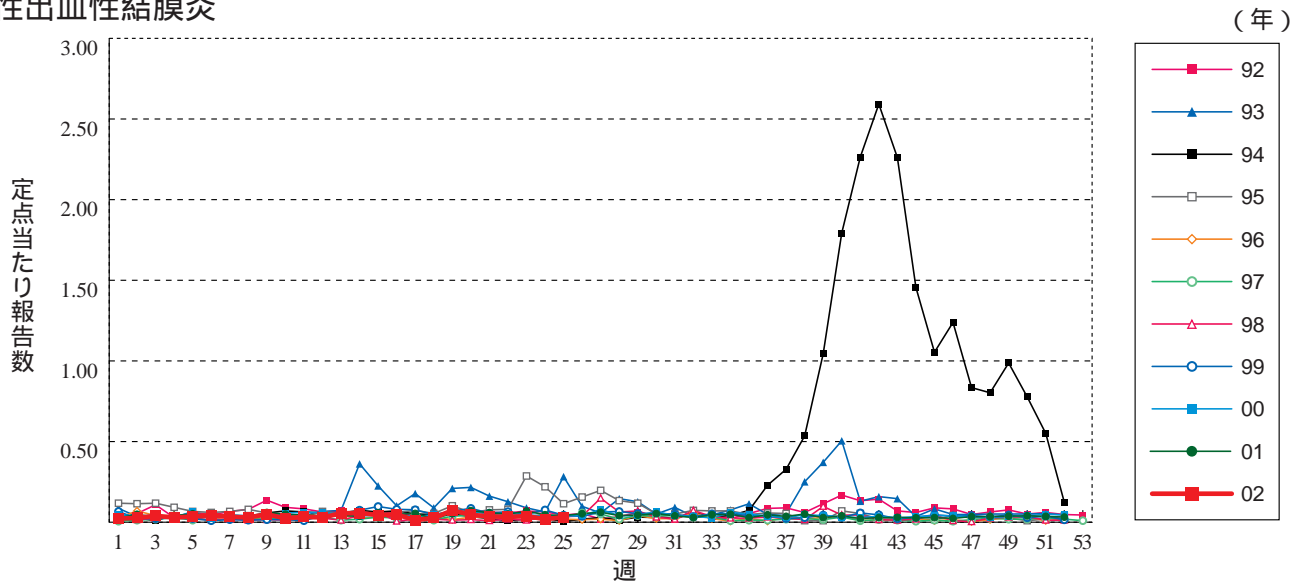
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



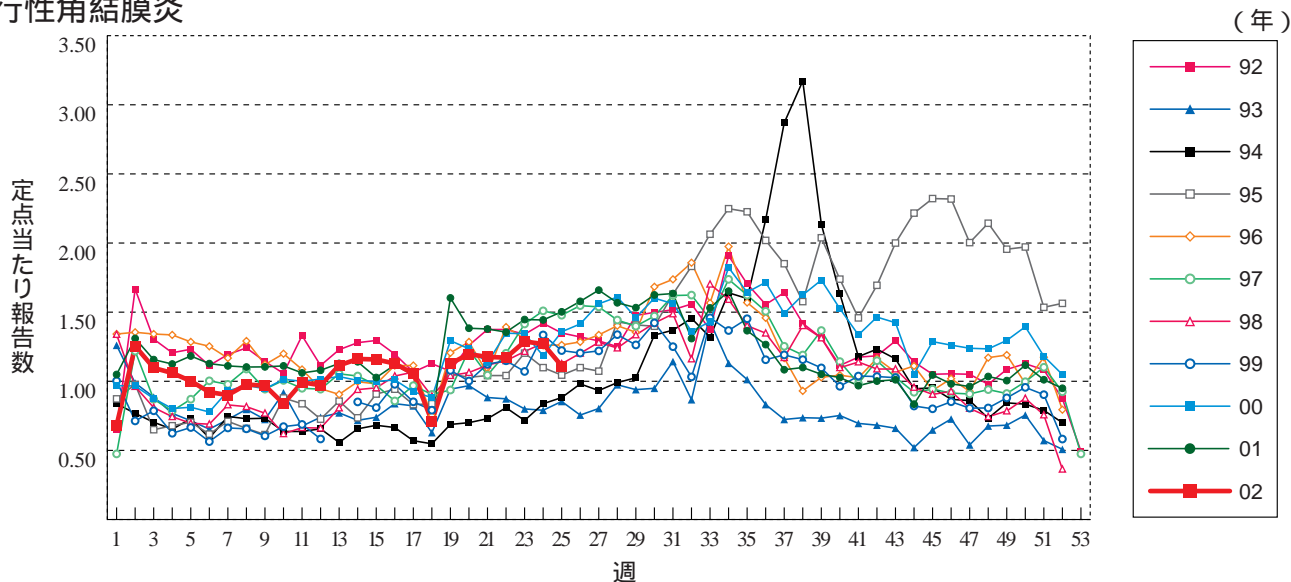
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

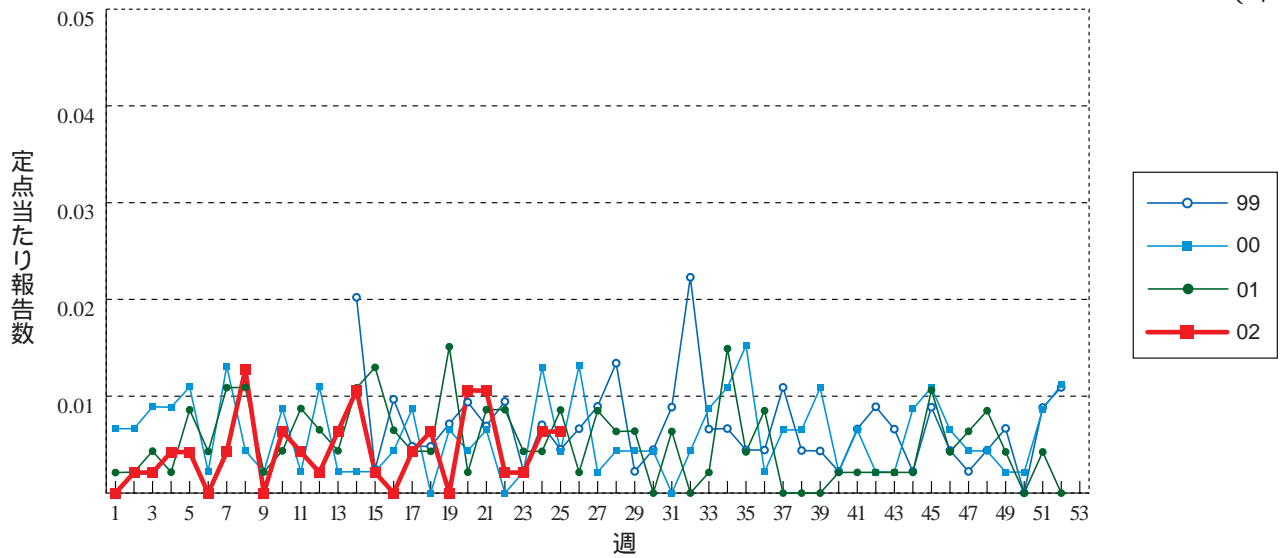


流行性角結膜炎



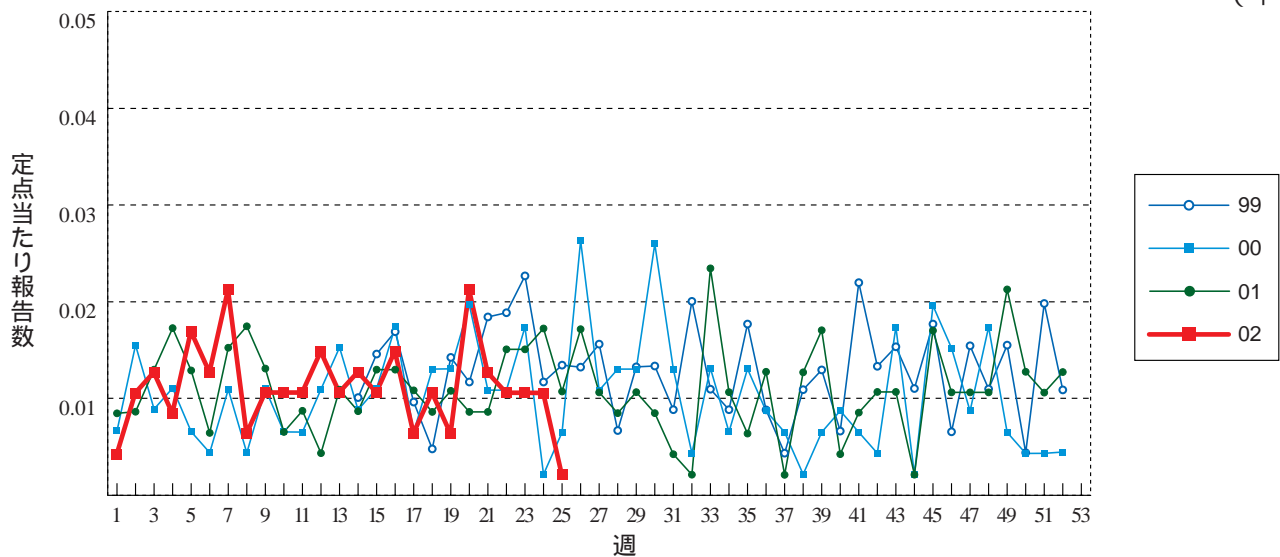
急性脳炎（日本脳炎を除く）

(年)



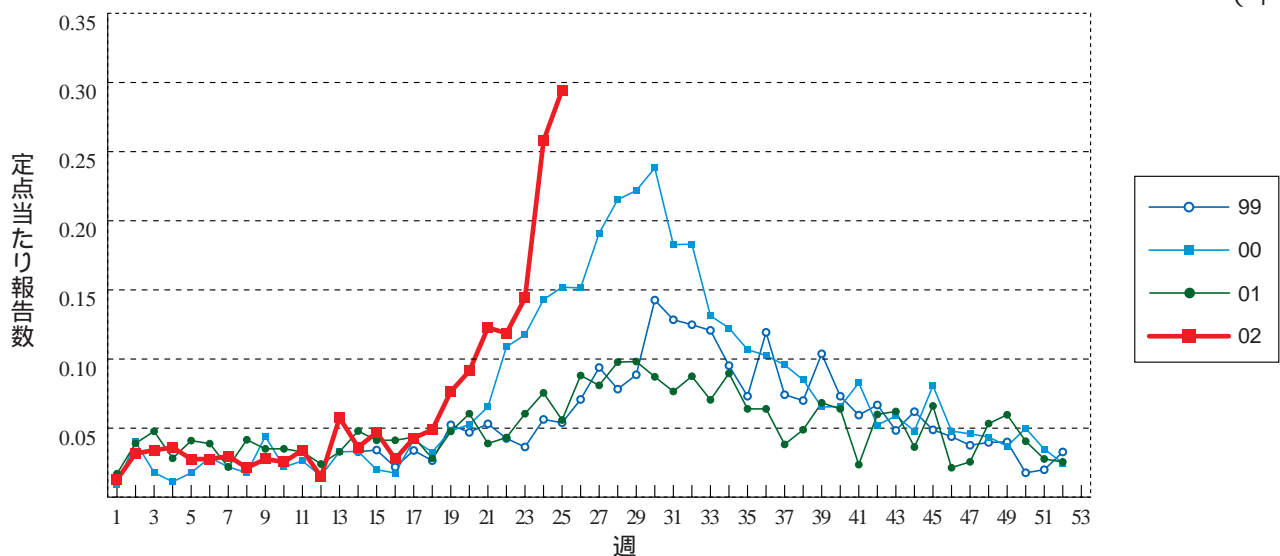
細菌性髄膜炎

(年)



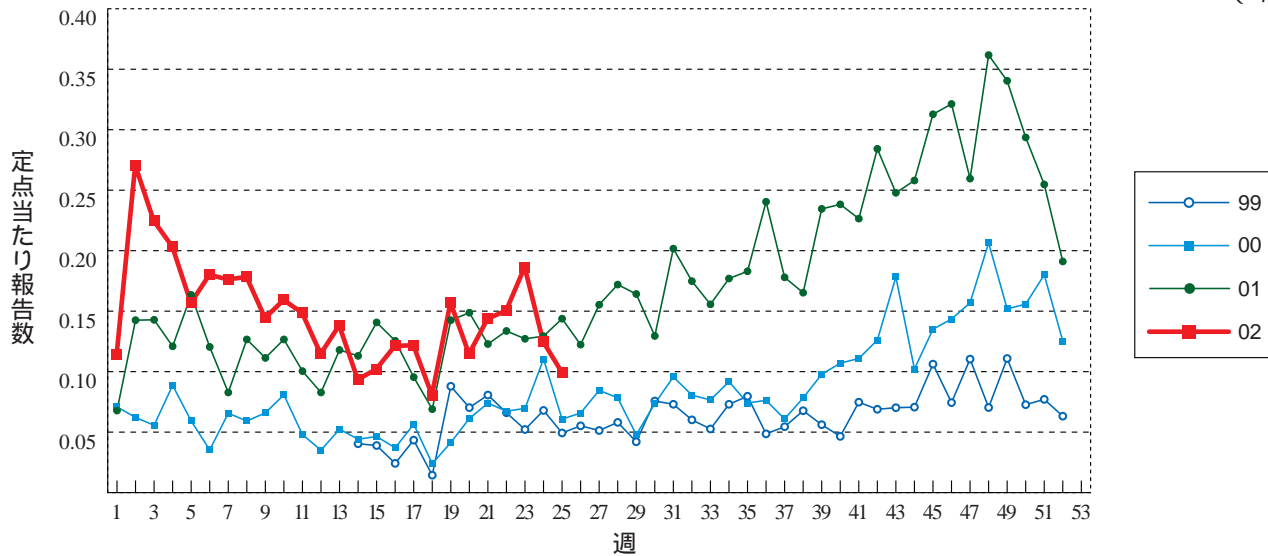
無菌性髄膜炎

(年)



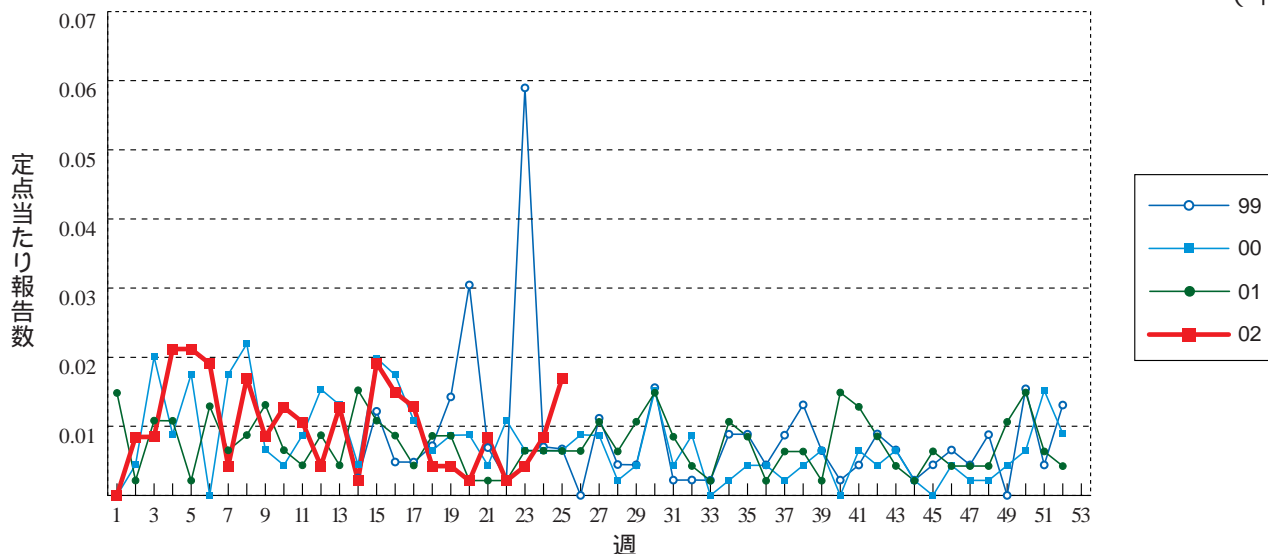
マイコプラズマ肺炎

(年)



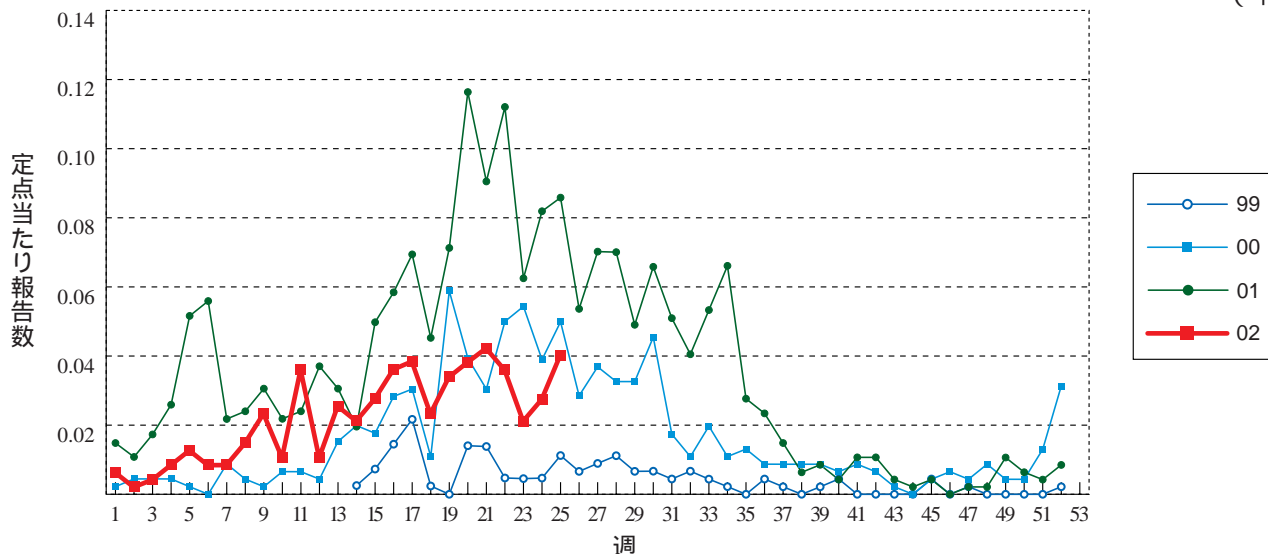
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





25週のデータ

注)表中の報告数は6月27日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年25週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	8	403	2	33	1	18	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	1	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	1	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	1	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	14	-	1	1	1	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	67	1	1	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	43	1	15	-	7	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	3	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	1	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	1	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	-	-	1	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	1	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	3	-	2	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	7	-	3	-	1	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	3	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年25週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	87	774	8	216	-	4	-	-	-	38	-	-	9	556
北海道	-	-	-	-	3	12	1	9	-	4	-	-	-	3	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	1	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
宮城県	-	-	-	-	-	12	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
秋田県	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	2	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
福島県	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
栃木県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
群馬県	-	-	-	-	-	13	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
埼玉県	-	-	-	-	-	5	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
千葉県	-	-	-	-	-	8	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	2	32
東京都	-	-	-	-	4	28	4	53	-	-	-	-	-	2	-	-	1	106
神奈川県	-	-	-	-	1	28	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
新潟県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	1	31	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福井県	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
岐阜県	-	-	-	-	-	4	-	7	-	-	-	-	-	3	-	-	-	14
静岡県	-	-	-	-	3	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
愛知県	-	-	-	-	-	32	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	1	27
三重県	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	1	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	1	31	-	8	-	-	-	-	-	2	-	-	-	16
大阪府	-	-	-	-	6	87	1	34	-	-	-	-	-	3	-	-	1	31
兵庫県	-	-	-	-	6	99	-	9	-	-	-	-	-	2	-	-	1	26
奈良県	-	-	-	-	-	17	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
和歌山県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	4	13	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	42	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	13
広島県	-	-	-	-	2	18	-	2	-	-	-	-	-	8	-	-	1	11
山口県	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	17
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
香川県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
高知県	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福岡県	-	-	-	-	1	28	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	21
佐賀県	-	-	-	-	42	86	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	1	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	1	19	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鹿児島県	-	-	-	-	1	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年25週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	23	-	-	2	100	1	61	-	48	11	383	-	2	1	54	-	-
北海道	-	1	-	-	-	34	-	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	2	2	-	1	-	3	-	21	-	-	-	3	-	-
東京都	-	18	-	-	-	2	-	4	-	4	8	161	-	-	1	30	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	2	26	-	-	-	5	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	2	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3	-	11	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	1	5	-	4	1	22	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	6	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	33	-	1	-	4	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	61	-	3	-	4	-	8	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年25週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	3	-	-	-	-	1	106	1	26	-	4	-	-	-	-	14	251
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13
青森県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	-	-	-	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	4
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
東京都	-	-	-	-	-	-	-	4	8	-	-	-	-	-	-	-	1	24
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	1	14
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	5
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	15
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	49
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1	12
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
広島県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
大分県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年25週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	37	-	17	-	-	-	-	-	1	-	-	-	38	-	3	-	45
北海道	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
栃木県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
東京都	-	2	-	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	10	-	-	-	8
神奈川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	5
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年25週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	500	0.11	459	0.15	3777	1.24	10854	3.57	6061	1.99	3778	1.24	1847	0.61	2645	0.87	23	0.01
北海道	19	0.08	27	0.19	346	2.39	268	1.85	386	2.66	35	0.24	53	0.37	88	0.61	2	0.01
青森県	13	0.20	13	0.31	21	0.50	84	2.00	99	2.36	24	0.57	54	1.29	23	0.55	-	-
岩手県	56	0.90	9	0.24	20	0.53	59	1.55	105	2.76	47	1.24	10	0.26	17	0.45	-	-
宮城県	28	0.29	5	0.08	71	1.20	424	7.19	170	2.88	118	2.00	47	0.80	56	0.95	-	-
秋田県	16	0.29	1	0.03	43	1.23	80	2.29	83	2.37	18	0.51	29	0.83	11	0.31	-	-
山形県	9	0.19	2	0.07	56	1.87	78	2.60	123	4.10	28	0.93	11	0.37	28	0.93	2	0.07
福島県	3	0.04	1	0.02	37	0.80	245	5.33	176	3.83	64	1.39	52	1.13	36	0.78	-	-
茨城県	4	0.03	1	0.01	72	0.97	164	2.22	123	1.66	62	0.84	96	1.30	37	0.50	1	0.01
栃木県	-	-	9	0.20	74	1.61	130	2.83	72	1.57	26	0.57	69	1.50	39	0.85	-	-
群馬県	-	-	7	0.11	87	1.40	137	2.21	104	1.68	22	0.35	56	0.90	59	0.95	-	-
埼玉県	8	0.03	44	0.28	278	1.75	675	4.25	381	2.40	243	1.53	117	0.74	174	1.09	2	0.01
千葉県	-	-	29	0.22	267	2.04	497	3.79	322	2.46	153	1.17	69	0.53	131	1.00	-	-
東京都	-	-	12	0.08	115	0.81	418	2.94	166	1.17	192	1.35	54	0.38	81	0.57	-	-
神奈川県	1	0.00	37	0.18	229	1.11	603	2.93	312	1.51	812	3.94	157	0.76	212	1.03	-	-
新潟県	39	0.39	13	0.22	62	1.03	286	4.77	183	3.05	27	0.45	56	0.93	44	0.73	-	-
富山県	7	0.15	15	0.52	45	1.55	131	4.52	90	3.10	58	2.00	35	1.21	22	0.76	-	-
石川県	-	-	1	0.03	16	0.55	126	4.34	84	2.90	28	0.97	37	1.28	23	0.79	-	-
福井県	-	-	2	0.09	42	1.91	130	5.91	54	2.45	6	0.27	8	0.36	25	1.14	-	-
山梨県	4	0.10	1	0.04	33	1.32	61	2.44	21	0.84	5	0.20	4	0.16	17	0.68	-	-
長野県	-	-	22	0.41	120	2.22	231	4.28	162	3.00	16	0.30	81	1.50	52	0.96	-	-
岐阜県	-	-	3	0.06	39	0.83	110	2.34	181	3.85	8	0.17	31	0.66	38	0.81	1	0.02
静岡県	-	-	9	0.10	105	1.22	318	3.70	178	2.07	137	1.59	105	1.22	88	1.02	-	-
愛知県	-	-	24	0.13	193	1.06	528	2.90	342	1.88	397	2.18	89	0.49	145	0.80	2	0.01
三重県	-	-	9	0.20	36	0.80	255	5.67	75	1.67	7	0.16	35	0.78	54	1.20	-	-
滋賀県	-	-	30	0.94	10	0.31	110	3.44	71	2.22	18	0.56	5	0.16	20	0.63	1	0.03
京都府	2	0.02	1	0.01	88	1.16	386	5.08	109	1.43	20	0.26	27	0.36	51	0.67	-	-
大阪府	-	-	21	0.11	202	1.04	629	3.23	328	1.68	246	1.26	84	0.43	164	0.84	3	0.02
兵庫県	1	0.01	20	0.16	107	0.84	656	5.13	286	2.23	159	1.24	79	0.62	118	0.92	-	-
奈良県	-	-	1	0.03	27	0.77	116	3.31	52	1.49	55	1.57	13	0.37	25	0.71	-	-
和歌山県	-	-	3	0.10	29	0.94	87	2.81	64	2.06	78	2.52	12	0.39	28	0.90	-	-
鳥取県	-	-	12	0.63	15	0.79	121	6.37	47	2.47	26	1.37	34	1.79	25	1.32	-	-
島根県	7	0.18	3	0.13	16	0.70	54	2.35	24	1.04	41	1.78	12	0.52	20	0.87	-	-
岡山県	1	0.01	3	0.06	32	0.59	152	2.81	74	1.37	116	2.15	11	0.20	23	0.43	1	0.02
広島県	-	-	23	0.31	56	0.75	219	2.92	103	1.37	107	1.43	25	0.33	88	1.17	1	0.01
山口県	3	0.04	3	0.06	80	1.63	221	4.51	74	1.51	11	0.22	41	0.84	69	1.41	-	-
徳島県	17	0.45	1	0.04	32	1.39	55	2.39	41	1.78	7	0.30	6	0.26	21	0.91	-	-
香川県	1	0.02	-	-	29	0.91	102	3.19	28	0.88	62	1.94	10	0.31	32	1.00	-	-
愛媛県	-	-	10	0.26	82	2.10	204	5.23	85	2.18	14	0.36	37	0.95	37	0.95	-	-
高知県	-	-	4	0.13	32	1.03	68	2.19	28	0.90	96	3.10	8	0.26	19	0.61	-	-
福岡県	8	0.04	4	0.03	221	1.84	637	5.31	232	1.93	24	0.20	21	0.18	139	1.16	3	0.03
佐賀県	-	-	-	-	36	1.57	32	1.39	46	2.00	6	0.26	7	0.30	37	1.61	-	-
長崎県	3	0.04	5	0.11	34	0.77	126	2.86	33	0.75	4	0.09	27	0.61	26	0.59	1	0.02
熊本県	8	0.10	5	0.10	91	1.86	220	4.49	91	1.86	1	0.02	15	0.31	59	1.20	-	-
大分県	-	-	1	0.03	43	1.19	181	5.03	58	1.61	1	0.03	1	0.03	31	0.86	1	0.03
宮崎県	-	-	7	0.19	51	1.38	194	5.24	63	1.70	16	0.43	8	0.22	54	1.46	-	-
鹿児島県	13	0.13	5	0.08	51	0.85	238	3.97	77	1.28	14	0.23	6	0.10	43	0.72	-	-
沖縄県	229	3.95	1	0.03	6	0.18	8	0.24	55	1.62	123	3.62	3	0.09	16	0.47	2	0.06

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年25週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	144	0.05	6953	2.29	329	0.11	4508	1.48	20	0.03	707	1.11	3	0.01	1	0.00	139	0.29
北海道	4	0.03	44	0.30	1	0.01	112	0.77	-	-	34	1.17	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	38	0.90	25	0.60	117	2.79	-	-	19	1.73	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	70	1.84	-	-	98	2.58	-	-	7	0.58	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	29	0.49	8	0.14	185	3.14	-	-	6	0.55	-	-	-	-	1	0.08
秋田県	-	-	45	1.29	3	0.09	77	2.20	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	101	3.37	2	0.07	141	4.70	-	-	7	0.88	-	-	-	-	-	-
福島県	1	0.02	76	1.65	10	0.22	128	2.78	-	-	19	1.58	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	0.01	124	1.68	8	0.11	60	0.81	-	-	41	2.56	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	109	2.37	-	-	98	2.13	1	0.08	16	1.33	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	293	4.73	4	0.06	98	1.58	-	-	80	5.71	-	-	1	0.10	-	-
埼玉県	1	0.01	383	2.41	18	0.11	203	1.28	1	0.03	45	1.29	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	1	0.01	555	4.24	28	0.21	182	1.39	1	0.03	34	0.97	1	0.08	-	-	-	-
東京都	3	0.02	369	2.60	6	0.04	103	0.73	-	-	21	1.50	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	4	0.02	741	3.60	17	0.08	221	1.07	4	0.10	58	1.38	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	367	6.12	-	-	152	2.53	-	-	9	1.00	-	-	-	-	-	-
富山県	1	0.03	165	5.69	3	0.10	86	2.97	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	61	2.10	1	0.03	41	1.41	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.40
福井県	-	-	63	2.86	-	-	11	0.50	-	-	2	0.67	-	-	-	-	14	2.33
山梨県	-	-	14	0.56	1	0.04	70	2.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	60	1.11	4	0.07	98	1.81	-	-	24	2.40	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	55	1.17	40	0.85	56	1.19	-	-	8	0.73	-	-	-	-	5	1.25
静岡県	3	0.03	261	3.03	14	0.16	127	1.48	-	-	10	0.50	-	-	-	-	1	0.10
愛知県	7	0.04	484	2.66	59	0.32	208	1.14	-	-	22	0.63	-	-	-	-	-	-
三重県	1	0.02	117	2.60	6	0.13	72	1.60	-	-	4	0.33	-	-	-	-	9	1.00
滋賀県	1	0.03	20	0.63	-	-	39	1.22	-	-	2	0.29	1	0.14	-	-	12	1.71
京都府	19	0.25	55	0.72	1	0.01	48	0.63	-	-	6	0.33	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	13	0.07	476	2.44	8	0.04	161	0.83	-	-	27	0.52	-	-	-	-	2	0.13
兵庫県	-	-	306	2.39	5	0.04	171	1.34	-	-	26	0.72	-	-	-	-	13	1.00
奈良県	3	0.09	59	1.69	3	0.09	79	2.26	-	-	9	1.00	-	-	-	-	5	0.83
和歌山県	-	-	40	1.29	-	-	45	1.45	-	-	2	0.50	-	-	-	-	2	0.18
鳥取県	-	-	61	3.21	-	-	35	1.84	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	1	0.04	28	1.22	1	0.04	39	1.70	-	-	1	0.33	-	-	-	-	2	0.25
岡山県	3	0.06	47	0.87	15	0.28	127	2.35	1	0.08	9	0.75	-	-	-	-	9	1.80
広島県	7	0.09	128	1.71	6	0.08	94	1.25	-	-	18	0.90	-	-	-	-	13	0.62
山口県	-	-	99	2.02	5	0.10	67	1.37	-	-	14	1.56	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	19	0.83	-	-	49	2.13	1	0.25	2	0.50	-	-	-	-	1	0.17
香川県	-	-	34	1.06	1	0.03	12	0.38	2	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.03	80	2.05	2	0.05	92	2.36	-	-	15	2.14	-	-	-	-	3	0.50
高知県	-	-	23	0.74	-	-	20	0.65	1	0.33	10	3.33	-	-	-	-	8	1.00
福岡県	64	0.53	359	2.99	8	0.07	139	1.16	-	-	36	1.38	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	30	1.30	-	-	26	1.13	-	-	2	0.50	-	-	-	-	3	0.50
長崎県	-	-	74	1.68	3	0.07	59	1.34	8	1.00	8	1.00	-	-	-	-	1	0.08
熊本県	1	0.02	127	2.59	3	0.06	29	0.59	-	-	10	1.11	-	-	-	-	22	1.47
大分県	-	-	75	2.08	6	0.17	90	2.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	0.05	141	3.81	-	-	152	4.11	-	-	20	5.00	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	1	0.02	47	0.78	3	0.05	130	2.17	-	-	4	0.67	1	0.08	-	-	3	0.25
沖縄県	-	-	1	0.03	1	0.03	61	1.79	-	-	13	1.30	-	-	-	-	2	0.29

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年25週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	47	0.10	8	0.02	19	0.04
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	2	0.33
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	8	0.67	1	0.08	-	-
秋田県	1	0.13	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	1	0.11	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	2	0.17
東京都	2	0.08	-	-	5	0.20
神奈川県	-	-	-	-	2	0.18
新潟県	5	0.38	1	0.08	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	4	0.40	1	0.10	-	-
長野県	1	0.09	1	0.09	1	0.09
岐阜県	-	-	-	-	4	1.00
静岡県	1	0.10	-	-	1	0.10
愛知県	1	0.08	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	0.07
兵庫県	-	-	-	-	1	0.08
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	5	0.63	-	-	-	-
岡山県	2	0.40	-	-	-	-
広島県	2	0.10	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.13	-	-	-	-
福岡県	1	0.07	3	0.20	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	2	0.17	1	0.08	-	-
熊本県	2	0.13	-	-	-	-
大分県	1	0.09	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	3	0.25	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第25号 平成14年7月5日発行
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html

<国立感染症研究所 感染症情報センター>

http://www.mhlw.go.jp/

<厚生労働省>

http://www.forth.go.jp/

<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。